

# 名古屋芸術大学・大学院 後援会報

第64号 2018年3月31日発行

## CONTENTS

1	目次 後援会委員募集	30	親の想い 子の想い
2	卒業生に贈る言葉	31	私が就職内定をもらうまで
3	名古屋芸術大学近況報告	33	音楽学部 第45回卒業演奏会報告
21	学務部報告 国際交流事業について	34	大学院音楽研究科 第20回修了演奏会報告 美術学部・デザイン学部 第45回卒業制作展報告 大学院美術研究科 第22回修了制作展報告 大学院デザイン研究科 修了制作展報告
22	芸大祭報告	35	後援会研修旅行報告
23	在学生及び卒業生の 展覧会・各種コンクール等受賞結果	36	名古屋芸術大学・大学院後援会会則
25	2017年ブライトン大学賞	37	大学運営組織図
26	後援会補助公開講座実施報告	38	せせらぎ合唱団・壁の華 会員募集 編集後記
29	第28回生涯学習大学公開講座報告		

## 後援会委員募集

日頃は後援会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。  
皆様からの後援会費は公開講座、芸大祭、クラブ活動、国際交流など様々な活動費の補助として活用されています。

後援会委員は、学長先生や先生方とお会いしお話しする機会も多く、親同士の交流、子供の学生生活をより身近に感じることでできる楽しい場です。

後援会に参加して子供の学ぶ大学を盛り上げていきませんか!?

後援会では随時委員を募集しています。

お気軽にお問い合わせください。

### 【お問い合わせ】

電話：0568-24-0315（内線385番）

メールアドレス：kouenkai@nua.ac.jp

副会長 水谷美枝子



NAGOYA UNIVERSITY  
OF THE ARTS

## 卒業生に贈る言葉



後援会長  
平井 友明

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

名古屋芸術大学では、昨年「BORDERLESS」を掲げ、美術、デザイン、音楽の3つの学部を統合し、芸術学部が誕生しました。大学としては他には無い、境界線をなくし、多面的に活かせる、まさに統合することで現代のニーズに合ったものと思います。

作品展や演奏会はいつも楽しみにして足を運んでいますが、発想の豊かさや演奏の素晴らしさに感動しています。

今年の美術、デザイン学部の卒業制作展はこれまでの愛知県美術館とは異なり、初めて大学の西キャンパス全体を使って行われました。私が思うに、運搬や会場の制約が無いことで、スケールの大きな作品や壁面に直接描いた絵画など、自由で個性的な特徴のある卒業制作展になったと感じました。

皆さんはこれまで学んできたことを発揮して、それぞれの夢に向かって頑張ってください。また、これまで大学生活を共にした友人、仲間、同窓生がたくさんいますので、時には協力して、時にはライバルとして活躍の幅を広げてください。

これからは社会人としての責任を自覚すると共に、人とのつながりを大切にして、それぞれの人生を歩んで下さい。

また保護者の皆様にもお慶びを申し上げますとともに、後援会に対するご支援ご協力に心より感謝申し上げます。



学長  
竹本 義明

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

2018年度18歳人口が減少し、社会構造も大きく変化する兆しが出ていますが、幸いにも愛知県においては地元大学への進学率が全国一となる70%を超えています。理由としては、愛知県を含む中部地方は企業の業績が良好で、他地域より就業環境が充実しているからと捉えられています。

平均寿命の延伸により、日常的に医療や介護に依存しないで自立した生活ができる健康寿命も延び、人生100年時代と言われるようになってきました。また、これからの第4次産業革命としてIoT(Internet of Things)により

AI (artificial intelligence) が人間の代わりに機械を自動制御する時代がやってきます。

そのような時代にあって生活に欠かすことができない心の充実として、今後は更に文化芸術のあり方が注目されると考えています。芸術や教育が社会に果たす役割として、芸術的な創造性が見直され、人間が持つ潜在的な可能性が益々重要となってきます。

大学卒業は一つの通過点であり、これから社会に出る皆さんは実践的な学びの必要性を感じるようになるでしょう。「生涯学習」という言葉がありますが、人間にとって生涯にわたる学習行為が必要であり、学校や大学における学習のみならず地域・社会で学ぶことが重要となってきます。

本学は、卒業生がいつでも大学に出入りできる環境を整えることが必要と考えています。そして卒業生に必要な学ぶべき分野を広げるため大学間連携も視野に、生涯にわたって遅く活躍できるよう、総合的な学びの場の提供を実現させていきたいと考えています。

# 名古屋芸術大学近況報告

## 音楽学部 / 芸術学部芸術学科音楽領域

### 声楽コース

#### <演奏会>

2018年2月1日(木) 熱田文化小劇場において「第16回歌曲の夕べ」が行われました。

2018年2月24・25日(土・日)西文化小劇場において「オペラ公演・喜歌劇《こうもり》」が行われました。

### 鍵盤コース (ピアノ・電子オルガン)

#### <公開講座・公開レッスン>

2017年11月2日(木)名古屋芸術大学東キャンパス4号館多目的ホールにおいて、ワルシャワ音楽院教授プロニスワヴァ・カヴァラ氏による「ショパンの音楽にみられるバッハの影響」～ショパン作品におけるポリフォニーのアプローチの仕方～が行われました。

2017年12月7日(木)名古屋芸術大学東キャンパス3号館ホールにおいて、植田克己本学特別客員教授による特別演奏と公開レッスン「Chopin 練習曲の真髓に迫る」が行われました。

2018年1月30日(火)名古屋芸術大学東キャンパス4号館多目的ホールにおいて、リスト音楽院終身名誉教授ジョルジュ・ナードル氏による特別公開レッスン「ロマン派へのアプローチⅡ」が行われました。

#### <演奏会>

2017年11月28日(火)電気文化会館ザ・コンサートホールにおいて「室内楽の夕べ2017」が行われました。



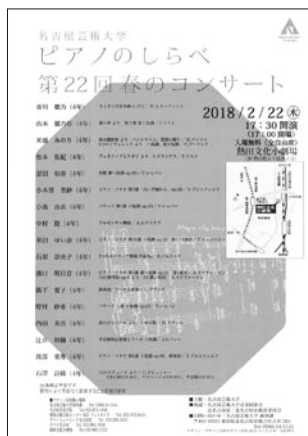
2017年12月7日(木)熱田文化小劇場において「Earth Echo 電子オルガン第20回定期演奏会」が行われました。



2018年2月11日(日)名古屋芸術大学東キャンパス2号館大アンサンブル室において「Organ Festival 2018」が行われました。



2018年2月22日(木)熱田文化小劇場において「ピアノのしらべ 第22回 春のコンサート」が行われました。



2018年2月27日(火)カワイ名古屋コンサートサロン“ブーレ”において「Piano Concert in Bourree」が行われました。

弦管打コース  
＜演奏会＞

2017年9月2日(土)飛騨・世界生活文化センター飛騨芸術堂において「名古屋芸術大学ウインドオーケストラコンサート」が行われました。



2017年9月16日(土)刈谷市総合文化センターにおいて「名古屋芸術大学ウインドオーケストラ第36回定期演奏会」が行われました。



2017年11月5日(日)豊田市コンサートホールにおいて「名古屋芸術大学オーケストラ第35回定期演奏会」が行われました。



2017年11月28日(火)  
電気文化会館ザ・コンサートホールにおいて「室内楽の夕べ2017」が行われました。



2017年12月5日(火)  
名古屋芸術大学東キャンパス3号館ホールにおいて「室内楽の夕べ2017(大編成の部)」が行われました。

2018年1月13日(土)名古屋芸術大学東キャンパス3号館ホールにおいて、北名古屋市市民芸術劇場「名古屋芸術大学ウインドオーケストラニューイヤーコンサート2018」が行われました。



### アートマネジメントコースからの報告

本コースは文化芸術を地域社会の柱の一つとしていくために、劇場や民間企業の企画制作者として活躍する人材を育てるコースです。4年間、様々なイベントを実施しますが、多くは、自治体や企業と事業と一緒に創りあげたり、学生の手で企画制作と運営、チケット販売まですべて行ったりする責任のある内容です。

今年度、1年生は前期にアートマネジメントや文化政策の基本を学び、後期には天白区地域力推進室主催の「てんぱく音楽祭」の広報マネジメントと当日の司会及び映像制作を担当しました。2年生は、長久手市の児童

館へのアウトリーチを企画から運営まで行い、3月末に行われる宗次ホール「イングリッシュガーデンに流れるクラシックメロディ」の企画制作も担当しています。3年生は、名古屋市からの依頼で、「アッセンブリッジ・ナゴヤ2017」において、会場となっている名古屋港区の調査を下地としたコンサートを11月と3月に築地神社で行いました。そして集大成の4年生は、長久手市文化の家風のホールにて、世界的な電子オルガン奏者マックス鷹野氏(本学電子オルガンコース教授)を迎え、11月に2回の公演を行いました。企画・制作・広報・運営のすべてを出し切るまさに4年間の集大成。学生の熱量がチケット販売につながり、2回公演ともに満席のお客様にご来場いただきました。

今後本コースは地域と芸術の繋がりを学生たちとともに考え、実践していく場でありたいと思っています。どうぞご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



### サウンドメディア/サウンドメディア・コンポジションコースからの報告

本コースは、音楽制作・録音・音響を学びながら、新しい時代のテクノロジーと芸術の関わりについて考え、作品制作に取り組んでいます。後期は通常の授業に加え、以下の活動に取り組みました。

9月13日から4日間、本学ウインドオーケストラのセッションレコーディングを、ベルギーよりHal Leonard MGBのプロデューサー、ベン・ハームホウトス氏を迎え、サウンドメディアコース学生と教員で行いました。本作品は、オランダ、デ・ハスケレーベルよりリリースされ、全世界で販売される予定です。

11月23日株式会社WOWOW技術局シニアエキスパート 入交英雄氏による公開講座「3Dオーディオの





現状と未来」を開催しました。近年急速に広まりつつある、ハイレゾや3Dオーディオの様々なフォーマットについて、氏の実際の録音制作に基づいて、スピーカーの数と聞き手の印象の変化について説明いただき、学生は3Dオーディオの魅力に触れることができました。

12月7日ピックアップ YAMAHICO(山彦)の開発者、山家清彦氏、箏奏者、野村祐子氏による公開講座「ピックアップを用いたPA/SRの可能性を探る」を行いました。箏の音響をテーマとして、楽器の歴史や構造、楽器ごとの音色の違いについて理解しながら、最適な音響について考えていきました。

2月17日、サウンドメディアコース学生が、現代におけるアートのあらゆる可能性を探求し、音楽作品を制作しながら、映像や照明の演出表現を加え、アートと音楽の有機的結合をめざすコンサート、「カレイドスコープ2018」を本学2号館大アンサンブル室で行いました。今年は室内オーケストラを表現の媒体とし、エンタメコースの照明やメディアデザインコースの映像といった各専門分野を活かした演出、そして本コース学生の個性豊かな楽曲を発表し、ひとつの演奏会を作り上げました。



### ポップス・ロック&パフォーマンスコースからの報告

コース主催の重要なものとして第一線で活躍しているミュージシャンを招いての公開講座があります。今年度は前期(6月)にExile Tributeでの専属バンドマスター・スタジオミュージシャンとして活躍中の堀川真理夫氏、後期(11月)には世界的にも評価の高い日本を代表するジャズドラマーの大坂昌彦氏を招いて計2回開催しました。どちらの講座でもオープニングでのデモ演奏に始まり、音楽にまつわるトーク、音楽を生業とするエピソード、練習方法、学生との質疑応答&アドバイス、そして学生バンド演奏と公開レッスンと充実した内容で行われました。またどちらのゲスト講師もこれからのミュージシャンにとって“英語を学ぶことが自身の活動を大きく広げ、音楽の表現にも影響する”という事を強調され、学生にとっては意外で強烈なメッセージでもあったようです。このような講演は、楽器練習やバンド活動に偏りがちなコース学生にとって視野を広げる意味で重要であるため、今後も定期的開催していきます。

9月11日と12日には山梨県の清里でフレッシュマンセミナー合宿を行いました。コース学生同士によるヴォーカルユニットやバンド、また他コースの学生も交えてのライブ演奏発表を通して新しい活動が始動するきっかけになるなど、お互いのコミュニケーションも含めて大きな収穫となりました。

演奏発表については、学生が人前で演奏する機会を増やしました。これまでも毎学期「ロビーコンサート」と称してセッションクラスの演奏発表を行っていましたが、今年度から新たに授業とは連動していないコース学生自主企画による「有志ライブコンサート」を始めました。これは前期と後期それぞれ1回ずつ行い、1年生から4年生まで普段セッション授業を履修していない学生も積極的にソロやバンドで参加しました。今後は集客にも意識を向けながらトータルプロデュースまでの過程を学ぶ方向に持っていきたいと考えています。また学生による演奏はオープンキャンパス開催時のコースライブでも必ずプログラムに組み込んでいます。学生達には“人前でデモ演奏する”という意識を持ちながら準備に取り掛かる姿勢が伺えることから、これも今後も続けていく予定です。

コースの中核となる授業に楽器別のレッスンとセッション(合奏)があります。特にセッション授業においては前年度の問題点を改善し、5つのジャンル別クラスを同日程同時刻に開講し、それぞれジャンルごとの専門教員のもと、学生個々の目的に即し、より充実した内容で行うことができました。今後はヴォーカル選択学生の履修が増加することが予想され、その対応クラスも課題として取り組んでまいります。

### 音楽ケアデザイン・音楽療法コースからの報告

本コースでは、子ども、成人、高齢者施設での音楽療法実習を継続的に行いながら、様々なイベントや音楽療法活動も展開してきました。ここでは2つの企画についてご報告いたします。

11月5日には、美術学部主催『旧加藤邸アートプロジェクト～記憶の庭で遊ぶ～』にて、音楽イベントの企画と演奏を行いました。美術学部の学生さんの素晴らしい作品をステージに、参加された様々な年代の地域の方々と大変楽しく充実した時間を過ごしました。今後もこのようなアートイベントや地域の集いの場に積極的に関わっていきたくと考えています。



12月18日は、2号館大アンサンブルで学生の演奏を中心とした第5回クリスマスコンサートを開催しました。



お世話になっている施設の方や地域の方、そして卒業生が足を運んでくださり、会場は満員御礼状態となりました。学生もこのコンサートに向けて練習や企画に励み、当日も本当に素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。また今年度は北名古屋市社会福祉協議会様との共同のステージや、実習でお世話になっている成人施設の方々との共同ステージ等、地域の方々も出演者として参加していただく試みを行いました。ご来場の皆さまから多くの感動的な感想もいただき、学生たちにとっても非常に思い出に残る一日になったことと感じています。今後もこのような交流コンサートを継続していきたいと考えております。

また、1月15日に行われた日本音楽療法学会音楽療法士(補)の試験があり、4年生全員が合格するという快挙を成し遂げました。卒業後の活躍に大いに期待したいと思います。

## ミュージカルコースからの報告

ミュージカルコースでは、ヴォーカル、ダンス、アクティングの基礎を学ぶレッスンと作品の試作を行うリ

ハーサルを交互に行いながら一年を過ごしています。

一年生と二年生は「猫」になりました。熱心に猫の動きを観察して、なんとか猫に近づこうと毎日、熱い努力を重ねていました。必死になんかに挑めば必ずなにかを手に入れることが出来る、それがステージ創りには大切なのだという想いを持つことで出来たようです。

大ヒットミュージカル『キャッツ』の世界で歌い踊る学生たちは全員が魅力溢れる猫になっていました。

三年生が挑んだのは、三島由紀夫の『近代能楽集』でした。三島由紀夫の格調ある、あの膨大な台詞を自分のものにするのはなかなか大変な作業です。しかし、台詞術を極めるには最適な作品であることも確かです。

悪戦苦闘の長い日々が続きました。普段は決して使わない「言葉」に戸惑いながらも、少しずつ台詞との距離をつめて行き、最後には演劇作品として成立するところまで仕上げることが出来ました。

三年生が演じた『班女』『葵上』は緊張感のある作品になりました。

そして、新年からは、全員で三月公演『Tango』のリハーサルに取り組みます。

## エンターテインメントディレクションコースからの報告

エンターテインメントディレクションコースではおよそ八十名の学生が照明、音響、舞台、演出などを学んでいます。制作チームが五チームほど組める人数です。このチームが各種演奏会、オペラ公演、ミュージカル公演にスタッフとして参加し、実際の舞台創作の場で、かなりハードな体験を重ねています。

失敗の許されない本番の場で、緊張感に包まれながら確実に仕事をこなせるようになることは、とても大切なことです。

そんな中から、自らの判断で舞台を進行させることの出来る学生が何人も出て来ています。このコースの若者たちは進化の速度がとても速いようです。

また、昨年十月には、最新のムービングライトシステムを備えた照明実習室が完成しました。ここでは、音楽を流しながら、コンサート照明のシミュレーションを行うことが出来ます。ムービングのオペレーターはいま最も人気のある職業で、照明実習室も予約で一杯になっています。

様々な学びの集大成として、今年も、スタッフワークを実践するパフォーマンスが行われました。

今回の“エンターテインメントディレクションコース 3rdパフォーマンス”では、コンサート、ドラマチックコンサート、ミュージカル、朗読ミュージカルの四作品に挑みました。企画・構成・演出・舞台美術・照明・音響の全てを学生たちが担当しました。冒険的な作品、ジャパネスクな作品、活気溢れる作品、ほのぼのとした作品と様々な場面がステージに展開され、確かなスタッフワークを感じ取ることが出来ました。

音楽領域主任 依田嘉明



# 美術学部 / 芸術学部 芸術学科 美術領域

美術領域では後期も様々な実技授業や特別講義、講評会などのイベントが数多く開催されました。

日本画コースでは前期から引き続き芸術院会員である土屋禮一先生による講評会を4年生と大学院生で行い、3年生は齋正機先生、2年生は岡村智晴先生に講評をして頂き、今年度は作家の目から、作家を世の中に結びつける立場から、未来ある若者達への愛情こもったメッセージは学生達の励みと意欲そして具体的目標の指針となりました。

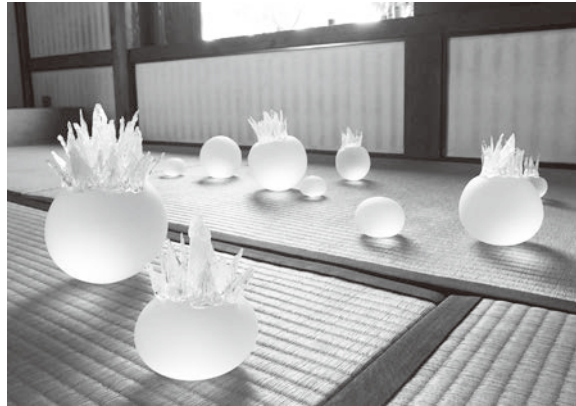


洋画コースでは11月15日に東京ASAKUSA若手ギャラリストの大坂紘一郎氏による「教育への、社会への、政治への転回：2000年以降のアート」と題された特別講義が行われ、これからのアートについて考察しながら独自の鋭い視点で学生たちに語られました。

また11月28日には豊田市美術館の学芸員である能勢陽子氏による「今年の国際展ドキュメンタ、ミュンスター、ヴェネツィア、リヨンについて」のレクチャーがあり、欧米を中心とした世界各地で開催された今年度の国際アート展の様相を総括して頂き、グローバルな視点でのアートレクチャーに大きな刺激を受けました。



後援会補助講座の「瀧田家アートプロジェクト2017 一時の舟一」が10月22日～11月5日に開催されました。



アートクリエイターコース陶芸・ガラスクラスの3、4年生と大学院生の計14名の作品が、常滑市指定有形文化財「廻船問屋 瀧田家」を会場にして展示されました。素材としての陶とガラス、その特性を自分なりに捉え考察し、各自のテーマに沿って表現しながら、特定された空間、文化財の室内・屋外に展示するという展覧会でした。現代社会における芸術性に多くのイメージを溢れさせる貴重な体験ができました。

後援会補助講座でのもう一つのプロジェクト「レインボーフラッグ～多様化する世界～」は今回で9年目を迎えた大学発・三日間限定FMラジオ放送「アーツ！ラジオ」が11月13日～15日に開催されました。“LGBT”をテーマに、学生達が7チームに分かれてサポートスタッフの助言を受けつつ、夫々が独自にディスカッションを重ねて番組を考案・構築して行きました。あるチームからはダイバーシティ（多様性）やLGBTなどの刺激的な言葉が飛び交い、他のチームはパソコンを開いて関連の単語について調べる。性の多様性や性のアイデンティティ等、それらしい言葉を検索するが、まだ、経験値が浅く、社会性が乏しい学生達にはそれらの言語がチンプンカンプン。何か日常と非日常に生息する特別な存在と受け取るヒトが大半、どこか身近にいる存在とは受け止められない。そんな難題に挑んだグループワークでした。

	11/13(mon)	11/14(tue)	11/15(wed)
12:30	オープニングトーク(10分)	オープニングトーク(10分)	オープニングトーク(10分)
12:45	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
13:00	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
13:15	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
13:30	ADDITION-音(30分)	ADDITION-音(30分)	ADDITION-音(30分)
14:00	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
14:15	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
14:30	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
14:45	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
15:00	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
15:15	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
15:30	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
15:45	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
16:00	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
16:15	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
16:30	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
16:45	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
17:00	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
17:15	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
17:30	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
17:45	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)
18:00	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)	祝日・お盆の過ごし方(15分)







## ビジュアルデザインコースからの報告

jagda愛知が開催した「しるし展 わたしとしるし」に、2年から4年の学生が参加し、他大学や中部で活躍するデザイナーたちと交流を深めました。なかでも河瀬佳香さん、森葵さん、山口真理さんの作品が入賞し表彰を受けました。



しるし展 わたしとしるし

2017年度デザイン領域の特別客員教授・伊藤弘さんとのプロジェクトを夏から始め、10月の展示会の会場プラン・販売グッズ制作・カフェ運営などの企画運営をおこないました。

9月に栄・久屋大通公園でおこなわれた「ふるさと全国県人会まつり」PRのためのうちわデザインに、森瑞季さんの作品が選ばれ配布されました。



「ふるさと全国県人会まつり」告知広告



Groovisions NUA展

津島市との官学連携授業として、津島市環境計画推進ポスターの制作をおこないました。地域コミュニティの代表者との意見交換やプレゼンテーションなど、貴重な体験となりました。

2年生の演習「街のかたち・色・文字」の展示を名古屋港にあるポットラックビルでおこない、近隣住民の方々からご意見をいただきました。

また、3年生のコース展として「ナゴヤ展」を円頓寺商店街のカフェ／ギャラリーの2箇所にておこないました。今年は名古屋城をPRするというテーマのもと、名古屋市の関係者の方々からのご意見もいただきました。今後、こうした学外での展示も積極的におこなっていこうと考えています。



「街のかたち・色・文化」展示風景



「ナゴヤ展」展示風景



プレゼンテーション



## イラストデザインコースからの報告

普段から昨今のデジタル技術を応用した作品づくりや、従来のアナログが生み出す世界観を大切にし、うまくそれぞれを融合させる事で、4年間の学びの中で個人の表現方法や作風を確立して行く事が行われている。



3年生のペインターやPhotoshopを使った、デジタルイラストの授業



アクリル絵の具を使って日本の神様や妖怪が緻密に書込まれていく卒業制作作品



特別講義で自分の作品を発表するメディアを持つ事についてエンド嬢氏にお話しいただいた。



学内開催の卒業制作展でイラストコースの展示は広い体育館を使って行われた。

## メディアデザインコースからの報告

毎年2月、メディアデザインコース3年生を対象に「東京研修」に行っています。4年生になるこの時期に合わせ、普段見ることが少ないメディア系作品を体験し、これから卒業制作を迎える心の準備として位置づけています。

今回は森美術館での「レアンドロ・エルリッヒ」展、恵比寿映像祭、NTTインターコミュニケーションセンターなどを見学し、盛りだくさんな一日となりました。



カレイドスコープ2018



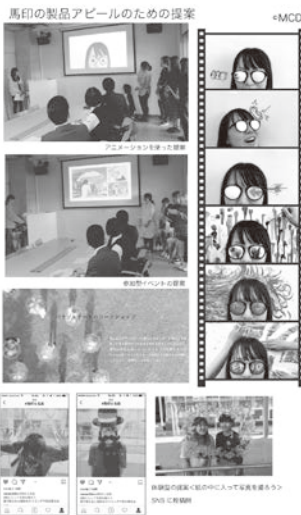
東京研修

また今年度も卒業制作展と同じ時期に音楽領域のサウンドメディアコースとの共同イベント「カレイドスコープ 2018」が開催されました。メディアデザインコースから2,3年生15名が参加し、音楽と映像によって構成されるコンサートが実現しました。

## メディアコミュニケーションデザインコースからの報告

<馬印としてのコトづくり>

馬印ホワイトボード、黒板、チョーク製造販売の株式会社馬印の新品をアピールするため、アニメーション型、体験型、参加型という3つのコミュニケーションメディアを3案制作提案しました。企画、制作、仮イベント実施、展示検証をまとめ、9月28日に関係者を集めプレゼンを行いました。



＜てんぱく音楽祭のイメージロゴの制作＞

音楽学部が連携しているてんぱく音楽祭のキャラクターイメージの制作依頼があった。MCDで5チーム8案が出され、担当者が区役所にプレゼンボードを持ち帰り、審議の結果以下の採択案が決まった。



＜2017年度学内卒業展＞

今年度の卒業展が初めて学内で開催された。メディアコミュニケーションコースは通常の教室が狭く3学年とも位置がバラバラということもあり、通常共通デッサン室と使用されているG201を使用させてもらえることとなった。2、3年生の教室を加えた教室を学生と教員で80枚以上のベニヤを使い展示に最適な仮設壁を設置した。美術館では実現不可能な空間を得て卒業制作作品を展示することができ、大学開催は学生にとってもコースにとっても西キャンパス両学部にとっても大変有意義な展覧会となったといえるだろう。

ライフスタイルブロック デザインマネジメントコースからの報告

ノルウェーを拠点にフードデザイナー／フードストラテジストとして活躍するスナナ・ヘルマンドッティル氏を特別客員教授としてお招きし、「食で未来社会をデザインする」と題した一連のプログラムを行いました。プログラムは、国際デザインセンターでの公開講座「共感のデザイン／未来社会と食をデザインする」(ユネスコ・デザイン都市なごやとの共催)、学生を対象にした2日間のワークショップ「デザイナーは未来社会をデザインするためのツールとして食をどう扱えるか」、ワークショップの成果を踏まえた学内講演「料理とは何

か／食の振る舞いをデザインする」の3部で構成されました。

このプログラムを通じて、日々私たちが口にしている「食」と、経済や環境を含めた多様な社会的側面とが関わりあっていること、そして、デザイナーが食に関わるそうしたシステムの全体像を理解し、食との関係を改めてつくり変えていく必要があることを理解できる貴重な機会となりました。ライフスタイルデザインコースでは今後も積極的に生活とデザインとの接点を問い続けたいと考えています。



ワークショップの様子：ある人物がどのように食と接しており、その食が生産や流通過程でどのような人の手を介し、どのような影響を社会に与えているかマッピング



公開講座の様子：食への「共感」を高めることが、食全体のシステムを変えていくには重要だと語る、スナナ・ヘルマンドッティル氏



## テキスタイルデザインコースからの報告

名古屋帽子協同組合×名古屋芸術大学「第34回尾張名古屋の職人展 帽子ファッションショー」 9月23日 名古屋市中区栄 オアシス21 銀河の広場

名古屋帽子組合からの依頼で、尾張名古屋の職人展に参加した。5回目となる今年度は「Magic!」をテーマに、3年生がデザイン・制作した布を名古屋帽子協同組合が縫製、学生自身がモデルになって出演した。



帽子ファッションショー



公開講座「産地のこれから」

公開講座「シンポジウム テキスタイル産地のこれから ローカル&グローバル」 11月21日 西キャンパスB大講義室

テキスタイル産地で活動する若手デザイナーの合同展示会「NINOW」のメンバー3名、卒業生の小島日和氏（「NINOW」代表）、卒業生の田畑知著氏（中外国島株式会社）、播州織産地の小野圭耶氏（東播染工株式会社）に加え、2017年度特別客員教授の斎藤統氏と2016年度特別客員教授の宮浦晋哉氏を迎えて、テキスタイル産地のこれからのについてパネルディスカッションをした。

親子ワークショップ「ハンカチに冬野菜を染めよう！」 12月3日

「ステキスタイル展」 12月4日～10日 小牧市まなび創造館

こまき市民財団から「東海地域であまり紹介されていないテキスタイルデザインの魅力を市民に伝えてほしい」との依頼を受けて開催した。ワークショップは、小牧市の親子15組が参加。「ステキスタイル展」は、2年生から4年生の学生作品、スタッフの作品と共に、ワークショップ参加者の作品を展示した。

総合展「THE 尾州」2月21日～23日 一宮市体育館

学生がデザイン、尾州産地が生産するテキスタイル開発プロジェクト「NUA textile lab 2nd season」の布を展示。「尾州の匠ものづくりリレー事業」に3年生小島聡一郎くん、「翔工房」に3年生石川菜彩さんと加藤千佳さんがデザインした布を展示した。

合同展示会「コダワリノヌノ」3月15日、16日 ふくい南青山291

学生がデザイン、尾州産地が生産するテキスタイル開発プロジェクト「NUA textile lab 2nd season」の布を、アパレルデザイナー対象の受注販売会に出品した。

face book : NUAtextile

## インダストリアル&セラミックデザインコースからの報告

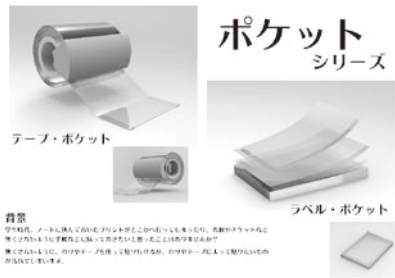
- ナガサキ工業株式会社との産学協同プロジェクトに3、4年生で参加「鉄物ギフトの新提案」をテーマに、ナガサキ工業担当者へ毎週プレゼンテーションを行い、デザイン案から実施制作可能な製品に仕上げ、14作品を選抜し、名古屋三越栄店で展示会を開催した。（中日新聞に掲載）





● シャチハタ株式会社との産学協同プロジェクトは、「子供と親のつながりを考え、楽しいコミュニケーションにより、学びや人間性の成長を図るといった視点から、子供を取り巻く環境や家庭での生活状況を調査／分析し、新たなコンセプトを導き出し、新たな文具のデザインを提案」約15名のIDコースの各学生が本授業の中で2ヶ月間で企画提案。教員および、シャチハタ社員がアドバイスをを行うことによりデザイン及び商品性のレベルを高め、各案をコンペ形式にてシャチハタ株式会社に製品の提案プレゼンテーションする。学生のデザイン案の中から最優秀デザインを選び、製品企画案として採用することで実技授業の実績としました。

● コクヨ デザインコンペに3年生の安田駿太君他2名のチームが自分のスケジュールの重要性を高低で表現でき、一ヶ月の感情の変化を一目で見られるプロダクトを提案、応募作品8000名から10名入賞に選ばれた。



## カードデザインコースからの報告

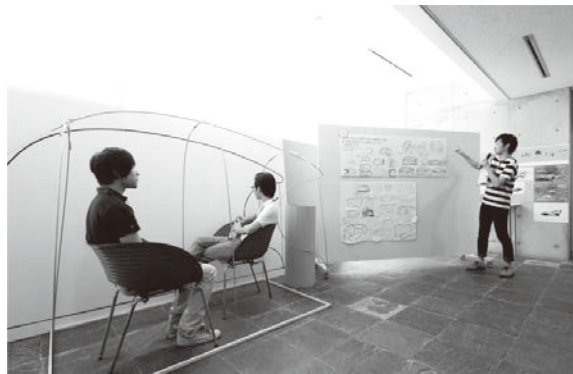
1：特別客員教授木村徹氏によるワークショップ「IDOU」&公開講座「クルマは変わる」を開催しました。

2017年8月5日(土)、デザイン領域特別客員教授木村徹氏によるインダストリアルデザインワークショップ「IDOU」の講評会、および、公開講座「クルマは変わる」を開催しました。

ワークショップの「IDOU」は、カードデザイン、インダストリアルデザインを学ぶ名古屋芸術大学と中部地区の大学生を対象に開催されたワークショップで、10年後に自分が使いたい移動のための道具をデザインする、という内容で8月2日～5日に行われました。事前に申し込んだ30名が、未来の移動のための道具・乗り物を考えてディスカッションを行い、スケッチやモックアップを作ることで考えを視覚化しました。5日の午前中は、スケッチとモックアップを展示し、グループごとにプレゼンテーションを行いました。2日半という短時間のワークショップにもかかわらず、多数のスケッチ、実物サイズをイメージできるモックアップなど、力作が揃いました。木村氏は、短時間でもフルスケールでモッ

クアップまで制作できたことは大きな意義があり、このように濃厚な時間を過ごすこと自体が今後の大きな糧になること、「移動」することは人間の本能であり、移動するという行為の意味をしっかりと捉えて欲しいということ、デザイナーにとっては夢を見るのが非常に大事であり、夢の見方を覚えて欲しい、と講評会をまとめました。また、夢を見るのがもっとも重要であると学生たちに伝えました。

5日午後からは、B棟大教室に場所を移し、公開講座「クルマは変わる」となりました。会場には、ワークショップに参加した学生、一般の学生に加え、自動車メーカーに勤める現役のデザイナーなど社会人も数多く来場しました。講演は、若い人たちに明日を考えて次世代の車がどうあるべきかを考えて欲しい、ということから始まりました。現在では、自動車産業は成熟産業と考えられており自動車はコモディティ化していくと言われていますが、そんなことはなく、エネルギーの転換期にきており自動車自体が大きく変わる時期であり、デザイナーとしてもやるべきことがたくさんあると説明しました。



## 2：トヨタ車体と産学共同開発を行いました。

昨年度に引き続き2回目のプロジェクトでカーデザインコースの2,3年生12名がこれに参加、7月から12月まで、トヨタ車体から提案された課題について全員がこれに取り組みました。トヨタ車体からは毎月各部門の課長や、時には部長まで来校し、プロの目線で学生たちにアドバイスをされました。プロジェクトの間には、ト

ヨタ車体デザインスタジオの見学、手描きスケッチセミナーやデジタルスケッチセミナーを開催、日ごろ目にするものないプロのテクニックを学ぶ機会もありました。最終発表はトヨタ車体のプレゼンテーションルームで巨大なスクリーンに映し出された各自の作品を発表しました。学生にとってプロの仕事を経験するとても良い経験となりました。



## スペースデザインコースからの報告

スペースデザインコースでは、授業内での作品制作だけでなく学内外の展示・発表を積極的に行っています。

2年生は、毎年秋に美濃市で行われる「あかりアート展」に、美濃和紙を使った照明を制作し、歴史的な町並みに屋外展示し、たくさんの来場者から感想などいただきました。

また名古屋市の紙屋さん「ペラム」のショールームでその場所のリノベーション案を模型や図面、商品案などを展示させていただきました。



ペラムショールームでの展示

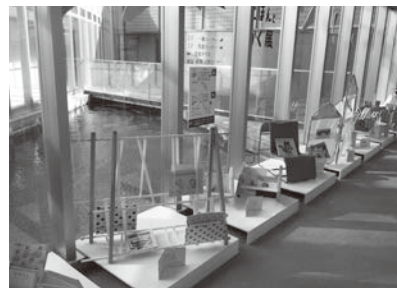


美濃市あかりアート展出品

3年生は子どものための読む空間で使用する家具を制作し、森山図書館や清須市図書館で展示、子ども向けワークショップなどを開催しました。



図書館家具展示風景



今年度は卒業制作展が学内開催のため、スペースデザインコースでは日頃の実技室を、作品と空間が一体化した展示空間として、コース担当助手と共に学生自らで作り上げました。



卒展会場



## メタル&ジュエリーデザインコースからの報告

2001年より毎年クラフトブロックとして素材展(2017年7月14日~7月26日)

アート&デザインセンターで2年、3年、4年、院生の学生達が、パート1、パート2の2週間にわたり作品を発表しました。

同時にクラフトブロックの教員達は、和室(X棟)で展示発表しました。



## 文芸・ライティングコースからの報告

文芸・ライティングコースでは、2017年9月30日に特別客員教授の北村想氏による公開講座(「演劇表現のレシピ」)を開催した。また、2018年1月20日に、絵本作家・詩人で『リサとガスパール』の翻訳家としても知られる石津ちひろ氏の特別公開講座を行い、言葉を用いて創作することの意味について語って頂いた。3月8日には学外研修として東京オペラシティで行われた「谷川俊太郎展」を観て詩作について学んだ。学生が小説・シナリオ・絵本・詩といった異なるジャンルで活躍する作家やその作品からインスピレーションを得ることで、自らの作品をいかに構成し、どのように言葉を向き合い、文章力を磨いてゆくののかという問題意識を高めることができた。



デザイン領域主任 駒井貞治



## 芸術教養領域

芸術教養領域は、2017年4月に開設されたばかりの、1領域1コース(リベラルアーツコース)の領域です。芸術への興味を社会で活かすため、芸術そのものに関する感覚や知識だけでなく、幅広い教養—周囲ときちんとコミュニケーションできる力、自分の興味を社会の中に位置づけるための知識、情報や言語を使いこなす技術、あるいは文化を確かに理解する力—を身につけることを目指し教育を行っています。

今回は、2017年度後半の芸術教養領域の活動を報告します。

### ●芸術教養レビュー

■2017年9月18日(金)~30日(土)

■東キャンパス9号館3階 リベラルアーツスタジオ

2017年度入学生の前期の実習授業の成果を発表する芸術教養レビューを行い、「ビジュアルリテラシー1」「サウンドリテラシー1」で制作した作品の中から、学生自身が選んだ作品を展示しました。

「ヴィジュアルリテラシー」は、デザインディレクターとして活躍する谷野大輔先生が担当し、カメラ・オブスクラをつくって写真を撮ったり、大理石でネームを彫る、

箱という空間の中に自分を表現するビジュアル・ボックスを制作するなどの作業を通して、見る力と表現する力を育てました。「サウンドリテラシー」は、アーティストとしても活動する日栄一真先生の担当で、Macを使つてのサウンドづくり、編集、映像に音をつける作業などにより、音と音楽について体験的に学びました。

展示に先立つ9月13日には口頭プレゼンテーションも行い、学生は、互いの作品を觀賞し、外部に向けて発表する場合のプレゼンの仕方を学びました。また、前期の取り組みを、後期の授業を担当する先生方に見ていただくことで、学びの接続を図る機会にもなりました。

# 芸術 教養 REVIEW

東キャンパス9号館3階リベラルアーツスタジオ  
9/18[月] - 30[土], 10-17h, 2017



●特別客員教授 戸田山和久先生の特別講義

■9月29日(金)17～19時

■西キャンパスB棟2階 視聴覚室

芸術教養領域2017年度特別客員教授の戸田山和久先生の特別講義を行いました。戸田山先生は、科学哲学の第一人者として、『「科学的思考」のレッスン—学校で教えてくれないサイエンス』『哲学入門』『恐怖の哲学—ホラーで人間を読む』などの著書があり、共著・翻訳も多数にのぼります。長年にわたって教養教育の重要性を説いてこられ、現在は、名古屋大学で教養教育院の責任者を務めています。

今回の特別講義は、「21世紀の教養を定義してみる」と題して、そもそも教養とは何なのか、なぜ大切なのか、21世紀の教養に求められることは何なのかを、市民にも開かれた公開講座としてお話いただきました。



●北名古屋市商工祭に出店

■11月3日(金・祝)

■北名古屋市健康ドーム

商工祭は、北名古屋市の地元企業が集まっの賑やかな物販イベントです。名古屋芸術大学が地元北名古屋市の商工祭にブースを出展し、芸術教養領域も、缶バッジの販売で参加しました。

●公開講座「リベラルアーツ×X」

■2017年11月19日(日)、12月10日(日)、

2018年1月21日(日)

■アトラボあいち

芸術大学にとって、リベラルアーツ(教養)とはなんなのか。今日のリベラルアーツをあらためて問うべく、後援会からの補助をいただき、「リベラルアーツ×X」(リベラルアーツかけるエックス)と題する3回シリーズ公開講座を開催しました。

詳細については、本会報内の記事「後援会補助公開講座実施報告」にてご紹介しております。

●「教養と芸術」研究会

芸術教養領域は、研究部門として「リベラルアーツ総合研究所」を併設しています。教養と芸術に関する諸課題について、学際的な視点から、社会との接点を自覚しつつ、ひろく研究を進め、その研究の成果を、「教養と芸術」研究会として、3か月に1度定期的に内外に発表しています。2017年度後期には2回の研究会を行いました。さまざまな分野での研究や実践について報告があり、アートと教養の社会における必要性や可能性に関し議論が行われました。

第1回

■2018年1月13日(土)～14日(日)

■せんだいメディアテークほか

13日：研究発表会

「リベラルアーツ—視覚をめぐる諸相」のテーマで、11名に参加いただきました。



早川知江「絵本と音」

水谷仁美「記憶／記録のかたち

——震災から7年をむかえ」

竹本圭吾

「東日本大震災からの商店街の復興について」

荘司陽太「サービス企画職から見るLINEの本質」

稲垣拓也

「集団でのクリエイション—WOWの事例より」

茂登山清文「教養の図、芸術教養の図」

14日：仙台市内諸施設見学

せんだいメディアテークと「3がつ11にちをわすれないためにセンター」(わすれん!)、震災遺構荒浜小学校と周辺、せんだい3.11メモリアル交流館、東北リサーチとアートセンター TRACなどを見学し、まちづくりや復興とアートの関わりについて学びました。

第2回：約10名にご参加いただきました。

■2018年2月9日(金)18：30～21：00

■名古屋芸術大学地域交流センター(テラッセ納屋橋内)

茶谷 薫「数学的なリテラシーは

どの程度備わっているか？

大学の教育でみえてきた問題」

日栄一真「肢体不自由者向け電子楽器の開発」

●多彩なゲスト講師陣による授業：「教養と現代」

芸術教養領域のカリキュラムポリシーは、「視聴覚メディアと言語、情報のリテラシーを修得し、少人数ゼミとプロジェクト授業を通して、世界と現代社会の問題を発見・設定して、その解決に取り組むスキルを修得できるカリキュラムを編成」することです。その実現のため、①ヴィジュアルとサウンド、英語と日本語、情報の5つのリテラシーを学ぶ ②プロジェクト型授業とゼミで、社会の課題を見つけ、その解決法を提案する ③外部から招く多彩な講師の講演を聴き、見識をひろげる、という特徴をもった講義・演習を展開しています。

2017年度後期に開講した「教養と現代1」は、特に③の点に焦点を当てた授業で、多彩な分野の研究者をお招きし、最先端の研究について幅広く、かつ深く語っていただきました(写真は、第2回の授業風景)

・第1回(9/29) 戸田山和久先生(科学哲学、芸術教養領域特別客員教授/名古屋大学教養教育院長)

「21世紀の教養を定義してみる」\*公開講座と同時開講

- ・第2回(10/6)横井茂樹先生(情報科学、情報文化デザイナー)「オアシス21における大型ディスプレイによる環境映像プロジェクト」



- ・第3回(11/10)黒田光太郎先生(九州産業大学教授/名古屋大学名誉教授)「工学リベラルアーツ」
- ・第4回(11/24)松原 洋先生(集合論、名古屋大学大学院情報学研究科教授)「無限の彼方へ!“To infinity and beyond!”」
- ・第5回(12/1)川口潤先生(認知心理学、名古屋大学大学院情報学研究科教授)「「思い出」の科学」
- スクーリング(全6回)

芸術教養領域では、入学予定者を対象に、入学後の雰囲気や生活をいち早く体験し、大学での学びについて知ってもらうため、AO入試終了後から毎月スクーリングを開催しています。教員に疑問や質問を相談できるチュートリアルや、学生どうしの出会いと楽しいおしゃべりの機会ともなります。2017年度後期は下記の内容で行いました。(写真は、第5回の視覚詩制作の様子)

- ・第1回(9/16)「ミニ・レビュー鑑賞と入学前学習」リベラルアーツスタジオ
- ・第2回(10/29)「異文化を味わう——チヂミ」LAC(リテラシー&アーツセンター)

- ・第3回(11/19)芸術教養領域 公開講座「Aging Hip Hop—リベラルアーツ×表現文化」アートラボあいち
- ・第4回(12/23)「切り絵で遊ぶ——形・色・レイアウトの意味」LAC
- ・第5回(1/27)イメージを使った制作体験「視覚詩をつくる」リベラルアーツスタジオ



- ・第6回(2/17)「卒業制作展とカレイドスコープ」西キャンパス、東キャンパス2号館大アンサンブル室

=====

上記スクーリングや各学期の始めと終わりに学生個別に行うチュートリアルに代表される、きめ細やかな指導、授業や学習環境に対する在学生の高い満足度、広報入試課スタッフをはじめとした教職員の熱心な広報活動の甲斐あり、来年度は、2017年度より大幅に入学者数が伸びる見通しとなっています。

芸術教養のディプロマ・ポリシー「現代のリベラルアーツを修得し、芸術と文化を理解する教養あるジェネラリストとして、現代社会でひろく活躍できる知見と技術、思考力を備え、卒業論文審査に合格した学生に対して卒業を認定する」にあるとおり、知識と感性の両面を備えた、教養あるジェネラリストの育成を目指して、今後も教育活動を続けていきたいと思っております。

芸術教養領域主任補佐 早川知江

## 人間発達学部

人間発達学部は発足以来11年目を迎え、今年度から二学部(芸術学部)構成の内の一学部となりました。2018年度入学生より、保育士、幼稚園、小学校教諭の3免取得から脱皮し、より高い専門性を求める4つのコース制(2年次選択)、8つの専門領域ゼミ(3・4年次)へ新たなカリキュラムを導入します。学部学生は一時期に比べ減少はしてきておりますが、旧短期大学部卒業生の温かな支援もあり、目標をもって充実した学生生活を送っています。特に『春を呼ぶ芸術フェスティバル』や『フレッシュマンセミナー』で実行委員を任せられた3年次学生たちに代表されるように、自信を持って様々なことに取り組みができ、かつ人間的にも優しい学生が多く在籍していることが何よりも誇らしい限りです。

### 学部行事

#### (1)特別公開講座

人間発達学部が主催する特別公開講座【遊びが育む豊かな学びとことば】が、全国子どもことば研究会代表者の今井和子氏を講師にお招きし、9月23日(土)に名古屋市東区のウィルあいちで開催されました。会場には、学部の学生をはじめ、卒業生や大勢の教育現場に携わる多くの方々が来場されました。まず今井氏の経歴、20数年間の保育現場での実践と大学での教鞭と実践研究を長くされていること等を紹介し講座は始まりました。講座は、子どもたちに接するときと同じように爽やかでわかりやすい今井氏の口調が印象的でした。遊びの中では、子どもたちにとって自分の思い通りにならない



こともあり、社会的経験やさまざまな感情を体験することになりますが、そのことがコミュニケーション力を養うことにもなると講演をされました。

## (2)文化創造セミナー



6月15日(木)8号館体育室で、講師に絵本作家・イラストレーター・あそび作家の浦中こういち氏を迎え文化創造セミナー【笑顔があふれる遊びの時間】が開催されました。前半の内容は、講師の口ずさむリズムに合わせて、手足や身体を動かす形式の遊びで、学生たちは、座った姿勢で縦に列を作り、前の人の肩に手を当てて、もんだり叩いたりしました。次に、数人でグループを作り、二人で一組になって、講師の歌やギター演奏に合わせて、背中に触れたり、身体をひねったり、両足を持ち上げて身体をゆすったりするあそびに挑戦しました。さらに、「紙皿シアター」(紙皿に描いた絵を見せながら演技するもの)では、「ごちそうが、たべられちゃったよ」などが紹介されました。「パネルシアター」(ふたつのそっくりな形のうち、どっちが本物か当てる遊び)では、「どっち?どっち?どっちかな?」などの演技が行われました。後半は、「忍者に変身お面作り」でスタートしました。新聞紙で折り紙をして鉢を使ってお面を作り、それを被って忍者に変身する遊びです。浦中氏の折り方の説明と指導を受けながらお面作りを行いました。そして、全員が出来がったお面を被って立ち上がり、様々なパフォーマンスをしながら忍者になって楽しく遊びました。最後は、ホワイトボードに貼られたいろいろな形のパネルの中で、指定された形のパネルを使って、制限時間内に自分のイメージしたものを作る遊びが行われました。

## (3)就職支援セミナーⅠ・Ⅱ

12月14日(木)、就職セミナーⅠが本学1号館702で開催されました。就職の決定している4年生が2・3年生に向けて体験談を話す形で行われ、公立幼稚園・保育所、私立幼稚園・保育所、小学校、福祉関係施設、企業・一般公務員の説明があり、ディスカッションが開



催されました。就職という人生の岐路を間近に控えた2・3年生は真剣な表情で先輩の姿を見つめ質問をしたり、先輩方の体験談のメモを取ったりしていました。続けて1月20日(土)「就職支援セミナーⅡ」を実施しました。在学生に、就職のための意識を高めようとのねらいで、5名の卒業生をお招きして、それぞれの職場の仕事内容や就職活動で努力したことなどをお話しして頂きました。公立幼稚園・保育所から、私立幼稚園・保育所から、小学校から、施設から、一般企業から、進学からの六つの分野の卒業生体験談を、在学生たちは熱心に聴講していました。後半は、分野別に分かれて相談コーナーを開催しました。先輩たちに直接質問や相談ができるということで、さらに熱心な姿が見られました。

## (4)卒業論文制作発表会



1月25日(木)、卒業論文制作発表会を各教室で開催しました。3年生・4年生の専門ゼミで2年間勉強してきた成果を、各8つの教員ゼミに分かれて発表し、2年生・3年生の後輩たちも参加して、活発な質問や討議が行われ、充実した一日となりました。

## (5)春を呼ぶ芸術フェスティバル

2月3日(土)、3年生実行委員が独自に企画運営するフェスティバルを3号館2階音楽ホールで開催しました。近隣の市町村の保育所・幼稚園・小学校にチラシを配布すると共に、来年度入学予定者に参加を呼びかけました。今年度は特に男子学生実行委員の活躍が目立ち、来年度入学予定者や一般の方々の評価が高く、素晴らしい内容のフェスティバルになりました。これを機に学生たちも自信につながったと確信しています。今年度からプレゼンテーション型入試で入学した芸術面に優れた学生の発表の機会を増やすため、サマーコンサートや芸祭コンサートも開催し、より芸大らしい学部へと変革しつつあります。







(6)保護者会

12月9日(土)第2回学部保護者会が1号館7階で開催され、1・2・3年生の学生の保護者35名が参加されました。I部の全体会では、人間発達学部の学生生活、学習支援、各種の学外実習の説明、及び就職支援の説明がなされ、保護者の皆様は熱心に耳を傾けておられました。II部では、個別相談に応じ、保護者を就職支援センターに案内し、その後本学の教職員との談笑もみられました。

(7)学生の就職状況

3月上旬の時点で進路が内定した学生が78人(84%)です。その内訳は、公立小学校18名、保育所31名(公立12名、私立19名)幼稚園4名、施設職員14名、一般企業16名、進学1名です。今年は小学校及び公立保育所正規採用が昨年度と比較すると僅かに良くありませんが、学部就職委員会が徐々に機能しているといえます。

来年度はさらに成果があがることを願います。また、今年度も小学校や公立保育園で経験を積みながら努力し、翌年正規合格する卒業生も多くみられます。

(8)教員移動

本年度末をもって、山中祐二准教授(社会科教育)が退職されます。山中先生は小中学校校長を経験されており、その経験を生かして本学では授業はもとより就職支援にも尽力していただきました。学生からはたいへん信頼の厚い先生方でしたので、本学部を去られることは極めて残念なことです。来年度4月から、体育の堀場みのり先生が着任されます。新年度からは新しい教員を迎えより充実した年度となるよう教員一同力を合わせていきたいと思ひます。



専門演習学外授業



星野学部長ゼミナールⅣ学外授業



オリエンテーション合宿(美浜)



芸祭コンサート2台ピアノ演奏

人間発達学部長 教授 星野英五

## 学務部報告

名古屋芸術大学後援会の皆様には、日頃から本学の運営、学生生活支援、国際交流等に多大なるご理解とご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、本学では平成30年4月から、学生サービスの更なる向上、情報の一元化による事務の効率化等を目指し、事務組織の再編を行います。この再編に伴い、学務部の組織も大きく変わりますので、再編の概要と狙いについて、ご紹介いたします。

最も大きな変更は、従来の「教務課」と「学生支援課」を統合し、「教務学生課」とすることです。この狙いは、ワンストップサービスの提供にあります。例えば、一人の学生が、履修登録、成績、奨学金について相談がある場合、履修登録、成績に関する相談は「教務課」、奨学金に関する相談は「学生支援課」へ足を運ぶ必要があり、効率的とは言えない状況がありました。このような問題を解決するため、両課を統合して「教務学生課」とすることで、学生に効率的なワンストップサービスを提供いたします。

もう一つの変更は、「キャリアサポート室」の設置です。「キャリアサポート室」は、全学的な組織である「キャリアサポートセンター」の設置に伴い、その事務部門として設置されるもので、従来の学生支援課の就職支援部分と教職センター事務室の教職採用支援、教育実習支援を統合したもので、一般企業への就職、演奏家、クリエイター、教職等、学生のキャリア形成を総合的にサポートするものです。

このような事務組織の再編に伴い事務職員についても、学生の多様なニーズに対応するため、各種の研修の機会を設けてスキルアップを図ることを計画しています。

最後に、後援会の皆様の平素からのご支援に対して心からの感謝を申し上げます。今後も皆様のご意見をいただきながら、学務部の運営に努めてまいります。ご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

学務部長 山田芳樹

## 国際交流事業について

### 国際交流事業を通じたブランド力向上

グローバル化と大学間競争の高まりという社会的背景において、国際交流事業は大学のブランド力構築のための極めて重要な要素となってきました。交換留学制度を整えることにより国際的視野を持った学生を育てる教育環境づくりに寄与すること。国際的な研究交流を進めることでより高いレベルでの研究の質を維持すること。国際的に存在感をアピールすることで、海外からの優秀な留学生獲得へと繋げることをはじめとした多様な側面において、国際交流事業は大学全体の運営と密接に関わっています。

そうした視野に立ち本学の国際交流事業は進められています。昨年度より全ての学部学科の学生を対象とした本学独自の合同語学研修プログラムを学術交流協定校であるデンバー大学国際室、附属語学学校(米国コロラド州)と共同で実施しており、語学研修に加え音楽、美術、デザイン、人間発達のそれぞれの専門分野を実践的に体験できるプログラムが行われています。また、次年度より留学生・交換留学生を対象とした日本語学習の授業を開講

するなど、留学生へのサポート充実も進めています。また本年は、美術・デザイン学部の卒業制作展にあわせ、マラ工科大学(マレーシア)から来学した教員7名による特別講義が行われ、3月には音楽領域の教員による慶南大学(韓国)での交流演奏会が行われるなど、ヨーロッパの大学との交流に加え、アジア圏の大学とも充実した研究交流が進められています。

今後も様々な国際交流事業を通じて本学のブランド力・競争力強化へと寄与していく計画です。

国際交流センター長 水内智英





## ■ 2017年度 東キャンパス芸大祭

2017年度芸大祭は「REB∞RN」をテーマとしました。芸術学部芸術学科に生まれ変わった本学が、これまでの芸大祭で築きあげた基底をそのままに、今まで見たことのないようなものつくろうという思いが込められています。実行委員の人数が少ない中、かけがえのない3日間となるよう準備を進めてまいりました。

今年度は、台風に見舞われるという今までにないハプニングが起こり、いつ何が起こるか分からない状況での芸大祭開催となりました。

昨年度までのステージとは違い、ご来場いただいたお客様にはもちろん、模擬店出店者にもステージの雰囲気を楽しんでいただこうと考え、ステージを屋外に設営しました。残念なことに、台風の影響で屋内での開催となった中、イベント、ミュージカルコースやサークルのステージ発表等、素敵なステージとなりました。音楽学部の存在する東キャンパスだからこそのクラシックステージでは、アンサンブルや門下発表会など、クラシックを身近に楽しめる贅沢な時間を提供できたかと思えます。

人間発達学部を中心とした子ども向け企画では、学生が手作りの夜店や、ふわふわドームを開き、子どもの楽しんでいる様子が見られました。今年度は、各ゼミナールからボランティアの学生を募ったり、ゼミでの作品やレポートなどの展示も行いました。人間発達学部の学生が普段どのような勉強しているかを知るよい機会にもなりました。

模擬店は、毎年出店している老舗店から、初出店となるところまで様々で、各店舗の個性が光る装飾や宣伝で、どのお店に行こうか迷われているお客様も見られました。悪天候だったにもかかわらず、テント内からは賑やかな声が聞こえてきて楽しそうな様子でした。

スペシャルトークイベントゲストとして元NHKうたのおにいさんの横山だいすけさんをお呼びし、子どもたちとの接し方など様々なためになるお話を伺うことができました。ここでしか聞くことの出来ないスペシャルなお話に、学生・お客様・実行委員皆が釘付けでした。

今年度の芸大祭は様々なハプニングに見舞われながらも、参加いただいた皆様のご協力のもと無事に開催することができました。厚く御礼申し上げます。来年度も、これまでを超えるような芸大祭となるよう努めてまいります。

東キャンパス 芸大祭実行委員長 垂水佑希乃



## ■ 2017年度 西キャンパス芸大祭



2017年度の芸大祭は「どどめき」というテーマにより開催されました。この「どどめき」にはとどろき、たかなり、きらめきなどの意味が込められており、鼓動が高鳴ってどきどきわくわくするような、そしてこの芸大祭に出店してくれた生徒や来場者の皆様一人ひとりが輝ける様な場所になってほしいと思い、このテーマに決められました。

10月28、29日の二日間で開催された芸大祭ですが、今年は台風が接近し2日目の途中に芸大祭は終了となってしまいましたが、台風の中でも出店者の一人ひとりが頑張ってくれたおかげで、無事に芸大祭を終えることができました。また、台風の中でも沢山の方々に芸大祭に来ていただいて、恵まれた二日間となりました。2日間の中には沢山のステージイベントや外来イベントなどがありましたが、台風の中でも多くの方の協力があり、全てのイベントを終えることができました。

過去の代から続いている芸大祭ですが、昔と比べると店舗数が減少していたりと、変わってきている点もあります。しかし、今日までこの名芸での芸大祭が続けられているのは、以前の先輩たちが繋いできた数々の伝統や、現役の生徒たちの芸大祭が好きだという想いや熱意、そして教職員や地域の方々のおかげがあったからだと思えます。

これからも時代の変化とともに芸大祭は変わるかもしれませんが、それでも芸大祭が好きな人たちが集まり、アートやデザインの楽しさを伝えられる芸大祭を続けてほしいと願っています。

西キャンパス 芸大祭実行委員長 白田宣希





## 皆さん受賞おめでとうございます!

2017年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。学外のイベントでの受賞者については、本人および教員を通じて大学に報告があった内容を掲載しています。

### 音楽学部、芸術学部 音楽領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
<b>2016年</b>						
1月8日	第17回シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA	シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA 組織委員会	アジア大会 大学生部門 参加賞	ピアノ	2年生	黒木 七聖
<b>2017年</b>						
6月16日 6月30日	第22回ブルクハルト国際音楽コンクール	一般社団法人 東京国際芸術協会	管楽器部門 奨励賞	クラリネット	3年生	小松 佳司
			管楽器部門 奨励賞	クラリネット	卒業生	岩倉 彩乃
7月11日	第5回山田音楽賞	公益財団法人 山田貞夫音楽財団	山田貞夫音楽賞	クラリネット	卒業生	岩倉 彩乃
8月 17日~20日	第18回日本フルートコンヴェンションコンクール	一般社団法人 日本フルート協会	アンサンブル部門 金賞	フルート	4年生	横山 史奈
					2年生	小川理都子
					2年生	森川 健士
10月8日	第18回大阪国際音楽コンクール	大阪国際音楽コンクール 実行委員会	声楽部門Age-G歌曲コース エスポアール賞	声楽	卒業生	間澤 元
10月9日	第7回 JAA国際アコーディオンコンクール	日本アコーディオン協会	一般の部 第1位	アコーディオン	1年生	橋川 宗明
10月10日	あいち・ウーマノミクス推進事業「輝く女性 ソーシャルビジネスプランコンテストあいち2017」	愛知県産業労働政策課	愛知信用金庫賞	音楽療法	卒業生	佐藤友字子
10月	録音音響のコンベンション「AES(Audio Engineering Society Japan Section)」 「学生録音コンペティション」	Audio Engineering Society	トラディショナルアコースティック部門 ゴールドプライズ	録音	2014年3月 卒業生	永田 悠
10月15日	第23回みえ音楽コンクール	三重県文化会館	フルート部門大学生以上一般Aの部 第1位 三重県知事賞	フルート	3年生	江尻 雪乃
10月22日	第19回日本演奏家コンクール	日本演奏家協会	ピアノ部門 一般Aの部 特別賞	ピアノ	大学院1年生	中島 舞
			ピアノ部門 一般Bの部 特別賞	ピアノ	大学院1年生	勝浦 唯
10月28日	第22回TIAA全日本作曲家コンクール	一般社団法人 東京国際芸術協会	審査員賞	作曲	卒業生	蒔田 裕也
12月23日	第34回愛知ピアノコンクール	愛知ピアノ研究会	ソロ部門(大学・一般部門)金賞	ピアノ	大学院2年生	端地 貴文
<b>2018年</b>						
1月8日	第23回 KOBE国際音楽コンクール	KOBE国際音楽コンクール 実行委員会	優秀賞(2位)	ピアノ	卒業生	秀平 雄二
1月14日	第9回東京ピアノコンクール	東京ピアノコンクール 審査委員会	一般A部門 第3位	ピアノ	大学院1年生	中島 舞

### 美術学部、芸術学部 美術領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
<b>2017年</b>						
9月8日	アートアワードトーキョー丸の内2017	アートアワードトーキョー丸の内2017 実行委員会	a.a.t.m シュウ ウェムラ賞	第45期卒業生	洋画2	山田 茜
			a.a.t.m 三菱地所賞	大学院 同時代表現1年生	同時代表現	藤原 葵
11月11日	第12回 CBC翔け!二十歳の記憶展	CBCテレビ CBCラジオ	グランプリ	4年生	CAP 陶	清水理紗子
			準グランプリ	大学院1年生	造形・工芸	植村 宏木
			中日新聞社賞	大学院1年生	造形・工芸	深川 瑞恵
11月26日	第36回富士山学生書写書道展	毎日新聞社	最優秀団体賞	—	—	書道アート
			静岡県教育研究会 会長賞	4年生	洋画2	池上 夢与
				3年生	洋画2	海野 悠子

10月26日	第4回日展 第1科 (日本画)	公益社団法人 日展	入賞	卒業生・講師	日本画	福本 百恵
			新入選	大学院2年生	日本画	島次 悦郎
			新入選	大学院2年生	日本画	山守 良佳
	入賞		卒業生・A&Dセンター職員	日本画	磯部 絢子	
	新入選		第36期卒業生	洋画	山内 大介	
	入賞		卒業生	彫刻	加藤 真浩	
10月29日	第27回UBEビエンナーレ (現代日本彫刻展)	宇部市(山口県)、UBEビエンナーレ運営委員会、毎日新聞社	山口銀行賞	卒業生	彫刻	佐藤 慈男
	第1回新日春展	親日春会	新会員賞	22期卒業生	日本画	鶴飼 義丈
			奨励賞	卒業生・A&Dセンター職員	日本画	磯部 絢子
				25期卒業生	日本画	林 真
2018年						
2月6日	第40回中部二元展	中部二元会	東海テレビ賞	大学院2年生	造形・彫刻	加藤伸之介
3月14日	第12回飾り瓦コンクール	「飾り瓦コンクール」実行委員会	優秀賞 (オブジェ・エクステリア部門)	3年生	CAP 彫刻	岡部 智哉
			中日新聞社賞	大学院2年生	造形・彫刻	加藤伸之介
			読売新聞社賞	4年生	CAP 陶	清水理紗子

## デザイン学部、芸術学部 デザイン領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2017年						
	an der Veen/Teylers Museum Prize for the Contemporary Art Medal	Teylers博物館 (オランダ)	Teylers博物館賞	教員	メタル&ジュエリーデザインコース	瀬田 哲司
	第443回(3月期) 月間新人漫画賞	講談社	ヤングマガジン 月間新人漫画賞 佳作、TOP賞	第48期卒業生	イラストレーション	山本 怜美
5月10日	The One Show	非営利団体 「THE ONE CLUB」	Merit Award	第19期卒業生	デザイン科	平井 秀和 (Peace Graphics)
	えほん大賞	文芸社	優秀賞	第18期卒業生	デザイン科	長澤 洋
2018年						
2月17日	JIDAブロックデザイン賞	日本インダストリアルデザイナー協会	セントラル画材賞	4年生	インダストリアル&セラミックデザインコース	棚瀬 博之
			優秀賞	4年生	インダストリアル&セラミックデザインコース	加藤 優里

## 人間発達学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2017年						
8月20日	第13回全日本ラート競技選手権大会	第13回全日本ラート競技選手権大会実行委員会	規程演技の部 男子総合 第3位	4年生		古田 裕介
			自由演技の部 男子直転 第3位	4年生		古田 裕介
11月26日	第36回 富士山学生書写書道展	毎日新聞社	毎日新聞社賞	4年生		姫野 彩花

## 部活動

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2017年						
6月4日	第13回愛知大学男女バレーボールリーグ戦 春季大会	愛知大学 バレーボール連盟	男子五部 準優勝			

# 2017年度ブライトン大学賞 授与式並びに祝賀会

2017年度ブライトン大学賞授与式を、2月22日(木)名古屋芸術大学西キャンパス B棟大講義室にて開催いたしました。

今年度はブライトン大学から、Mr. Duncan Bullen (美術学部 学部長代理)と Mr. Patrick Dyer (テキストスタイルコース修士課程コースリーダー)の2名が来日されました。2月20日(火)の審査では、卒業制作展の会場である名古屋芸術大学西キャンパス内のノミネート作品を中心に巡り、学内の様子も興味深くご覧になっていました。

授与式では、水内智英国際交流センター長の開式の辞に始まり、竹本義明学長の挨拶を津田佳紀副学長が代読され、ブライトン大学賞の表彰授与式と続きました。表彰状授与式では、Mr. Duncan Bullenによりグランプリ1名、優秀賞1名、奨励賞2名、佳作6名の計10名が順番に発表され、各作品について講評を述べられました。



その後の祝賀会は学生食堂で開催され、平井友明後援会会長から乾杯の挨拶をいただきました。

今年度は学内で授与式及び祝賀会を開催したこともあり、多くの方々にご出席いただき、華やかな会となりました。新年度もブライトン大学との研究交流や交換留学を実施することが決まっており、更に発展的に展開されていくことが期待されます。

## 2017年度ブライトン大学賞受賞者

賞	学 部	コ ー ス	氏 名	作 品 名
グランプリ	美術	絵画(洋画2)	西田 麗良	おやすみは言わずに
優秀賞	デザイン	デザインマネージメント	大坪 奈央	『歩』は『個』を表す
奨励賞	デザイン	ヴィジュアルデザイン	鈴木 涼子	諸行無常
	デザイン	デザインマネージメント	村田 唯菜	It happened one day
佳 作	美術	アートクリエイター(版画・平面)	大沢 理沙	ハナシノタネ
	美術	アートクリエイター(彫刻)	木下 千穂	手をつなぎたい
	美術	アートクリエイター(陶芸)	清水理紗子	静かな鼓動
	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	安藤万由子	大江戸お楽しみ図鑑
	デザイン	スペースデザイン	塚松 秀夫	IRODORI
	デザイン	テキストスタイルデザイン	新美 汐里	めぐり



Grand Prix Akira Nishida





# 後援会補助公開講座実施報告

## 音楽領域

ミュージカルコースは後援会の援助を頂き、青少年文化センター・アートピアホールにて、オリジナルミュージカル『Tango』を上演させて頂きました。シェイクスピアの『マクベス』に題材を得た悲劇作品で、マクベスらしき人物は女、舞台をブエノスアイレスに移し、全編タンゴで綴るといふ少し思い切った作品です。音楽は、あのピアソラの楽曲を中心に構成し、編曲、振付も新たな装いで仕立て上げました。舞台美術、衣装、更には照明と音響はエンターテインメントディレクションコースの全面的な協力を頂くことが出来ました。その総数は三十名近くにのぼり、打合せからリハーサルの全てに参加して頂き、キャストたちとも良好なコラボレーションを行うことが出来ました。タンゴが登場するミュージカルは幾つもありますが、タンゴだけというミュージカルはほとんどありません。なにも手がかりのないまま学生たちはタンゴを研究し、ドラマの世界を探りながら、音楽と物語を調和させる作業に必死に取り組みました。

リハーサルが進むにつれて、スタジオにはどことなく切ない雰囲気漂うようになり、黄昏のアルゼンチンの港町、といった空気が流れ始めました。これは良い兆しです。苦しんでいたタンゴステップも次第に劇的な様相を呈するようになり、哀切のタンゴの調べの中にドラマの世界が浮かび上がって来ました。スタッフとキャストのコラボレーションの成果です。

ミュージカルとエンターテインメントディレクションの学生たちが、この、大がかりな作品創作を体験することが出来たのも後援会の援助を頂くことが出来たからです。

ありがとうございました。

## 美術領域

### 集団表現・ア"ーッ！ラジオ2017 レインボーフラッグ ～多様化する世界～

2017年度11月13日放送開始の大学発・三日間限定FM放送「ア"ーッ！ラジオ2017」が11月15日に終了しました。

今回で9年目を迎えたラジオ放送。『仮設』一構想領域研究室お題の“LGBT”をテーマに、サポートスタッフの助言を元に学生7チームが独自の視点でディスカッションを重ねながら番組を考案・編集しました。幾つかのチームではダイバーシティ(多様性)やレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーなどの刺激的な言葉が飛び交い、また、別のチームはパソコンからLGBT関連情報を調査して進めていきました。

“性”の多様性や“性”のアイデンティティ等のそれらしい言葉を検索するが、まだ、経験値や社会性が乏しい世代の彼等にはそれらセクシャルマイノリティーな言語が難解な上に、LGBTを非日常な世界と解釈する人達が大半で、どこか身近な問題と受け止められなかったようです。そんな難題に挑んだラジオ放送グループワークでしたが、学生達は多くの事を学んだ三日間でもありました。 「集団表現・ア"ーッ！ラジオ2017」統括・管理 教授 大崎正裕



フライヤー 2018



放送スタジオ

## デザイン領域

### やきもの散歩道と常滑フィールド・トリップ

常滑フィールド・トリップは、今年10回目の開催となった。10年とは、小学生が大学生になる長い年月である。常滑出身の名芸生が毎年数人いて、なかなか表現力豊かでセンスのいい学生が多く、彼らの記憶の中にこの展覧会があるのか聞いてみたくなった。

常滑には杉江、森下、渡辺、山田など同じ姓の人が多く、地元の人々は常さん、三信など名前呼び合ったり人に人の繋がりが濃い所である。しかしこの10年で町がかなり変わった。日本全国どこも人口減で悩んでいるが、常滑はこの10年で12%も人口が増えた。それも学童がいるような若いファミリー層の転入が増えたのである。彼らはやきもの散歩道のあるような市街地ではなく、古いものが何もない郊外のニュータウンに住む。10年前も、今も観光客が朝早くから散歩道を楽しんでいる。観光地でありながらお店が少なく、お土産屋が殆どない。レトロな町にタイムスリップした気分でおしゃべりし、写真を撮る。最近増えたのが中国そして、韓国、東南アジアからの人々である。外国資本が市内の大きなビジネスホテルを購入したことから、そこを拠点にゆったりとした時間を楽しむ。近くの万屋(昔のコンビニ。八百屋、魚屋、雑貨屋などが1つになった小売店)で買いホテルまで配達させている。すばらしい旅を家族で楽しんでいる。好奇心旺盛で展覧会も見に来る。

東京芸大で絵画修復の研究をされていた歌田先生は、10年程前から常滑ファンとなり何度も常滑に来て、変わり行く町、家、工場を描いた。今は無くなった常滑の

風景が歌田氏の絵に残されているということで地元の人々が集って展覧会をギャラリー「rin」で企画開催した。今でもレトロな風景が人々を魅了しているが、10年前はもっとたくさんの工場、煙突があった。

フィールド・トリップ代表の坂倉氏は、常滑で生きて来た人々取材し、A4サイズの写真冊子「常滑物語」を制作し、展覧会でも発表した。このおばあさん誰だろうと読んで行くと、結婚がきっかけで盆栽鉢を作ることになり気がついてみると70台後半になっていたと。記憶力がすばらしく、常滑の昔を語っていた。また地元の陶芸作家八木くんと夏に久しぶりに会い、散歩道の大きな窯と煙突を使い、薪を燃してのやきもの作りを、名芸の陶芸部と陶芸コースの人たちも参加してやることになった。

今回のフィールド・トリップ出品者も全て常滑に魅せられた人々であった。「ミシンのある生活」プロジェクトではOB大北が、足踏み式ミシンを使い椅子張り実



演をし、OG村松はポシェットのある傘を制作展示し好評であった。(名古屋芸術大学後援会、常滑市から後援していただきました、ありがとうございました)

デザイン領域  
教授 平田 哲生

## 芸術教養領域

### 「リベラルアーツ × X」の報告

芸術学部に芸術教養領域が開設されて一年が経ちます。その間に、「教養」をテーマに、市民を対象として公開講座を、後援会の補助のもと、三回開催しました。会場は、いずれもアートラボあいちです。愛知県庁大津橋分室で、1933年に建てられた表現主義的な造形を見せる魅力的な建築です。2015年から、あいちトリエンナーレが取り組んできた芸術の創造を継承し、発展させていくべく、アートラボあいちとして、その活動拠点になっています。

一連の公開講座は、そんな先端芸術の拠点ともいえるべき場所で、教養と何か(X)をつなぐ(x)、教養を何かで読み解く、あるいは何かをもって教養に切り込む、そんな試みでした。

11月19日に開催した第1回では、本領域の非常勤講師でもある、水川敬章氏(愛知教育大学 教育学部 講師)が、「Aging Hip Hop—リベラルアーツ × 表現文化」と題して、現代を生きるミュージシャンたちの活動を、老いと教養の視点から鋭く分析しました。

第2回(12月10日)には、芸術教養領域の応援団として、リーフにもお言葉を掲載していただいている浦野光人氏(株式会社ニチレイ 相談役)をお招きしました。「リベラルアーツ × リーダーシップ」という題目で、企業人としての、そのトップを務めてきた経験から、教養をめぐる興味深いお話を聴くことができました。年が明けて、第3回(1月21日)は、本領域の特別客員教授、戸田山和久氏(名古屋大学教養教育院長)が、クリエイ



## 人間発達学部

人間発達学部では、2017年9月23日(土)に、ウィルあいち(愛知県女性総合センター)にて、人間発達学部が主催する特別公開講座、今井和子氏による【遊びが育む豊かな学びとことば】を開催した。

氏の講座は、子どもたちに接する時と同じような爽やかで分かりやすい口調が印象的であった。核家族化、少子化、IT革命……、これらにより人間関係の在り方が変わり、子どもたちの生活に大きな影響を与えていること、とりわけ、親と子の人間関係が変わってきていると述べた。さらに、日本の子どもの自己肯定感の低さを紹介し、それは豊かな遊びを経験していないことが大きな原因になっているのでは、と警鐘を鳴らした。夢中になって遊ぶことが自分らしさを育み、そして個性を発揮することができるようになり、そのことが自己肯定感を育てると力説した。

実践の記録として「よっちゃんコロコロうんち」のエピソードを紹介し、大人が子どもの興味に共感し、子どもが好きなことに熱中することで本来の自分を現し、意味を持った行為へと発展していくことになると説明した。さらに、遊びが生きる力を養う理由として、



ティブディレクターとして幅広く活躍する小石祐介氏を迎え、対談されました。その型破りとも思われる行動と、実直な考えからは、教養の魅力的な側面を知ることができました。

どの講座にも、100人前後の聴衆が来場し、けっして狭くない会場は、熱気であふれ、熱心な質問・議論が続きました。講演の前と後には、やはり領域の非常勤講師として「サウンドリテラシー」を担当している日栄一雅氏がDJをつとめ、雰囲気を盛り上げました。

芸術教養領域主任 茂登山清文

“面白い”に夢中になることで集中力が養われ、興奮を持続させる遊びが脳を活性化し、脳の前頭前野を発達させることにつながると解説した。脳の発達に伴い、行動を抑制する力も付き、自分をコントロールすることができる人間へと成長し、いわゆる、キレやすい子どもやいじめをする子どもではなく、また、遊びの中では、自分の思い通りにならないこともあり、社会的経験や様々な感情を体験することになり、そのことがコミュニケーション力を養うことにもなるとも言われた。

安全保育の考え方について、子どもに怪我をさせないことを優先しすぎて、リスクに挑戦するという行為の芽を摘んでしまっていないか、との問題提起もあった。遊びの中で、失敗や葛藤を繰り返すことで、それを乗り越える生きる力を養っていくと語り、こうしたことを、実践記録の映像を見せながら、「子どもの動きを線として見ることで、目に見えない心の動きを観察することができ、心の動きを観察することで、子どもの本当の願いを知ることができる」と指摘した。

「指導計画の狙いは、子どもと保育者の願い」であり、保育者は仲立ちとして、発達の壁の代弁者となる仕事である。そこで子どもとつながる信頼関係こそが、保育の仕事の醍醐味だと言明し、講演を締めくくった。

人間発達学部長 教授 星野英五





## 第28回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習大学講座は今年で28回目を迎え、東西キャンパス合わせて18講座を開講しました。昨年度まで引き続き実施してきた水彩画、木彫、テラコッタ、オカリナ、イラストレーターなどの講座に加え、「鉛筆デッサン講座」などの新たな講座を開講し、大好評のうちに終了することができました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」においては、「つながりを創出する音楽ケア・音楽療法」の講座を開講し、30名の方に受講していただきました。

今後も幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設に努めてまいります。2018年度の講座につきましては、6月中旬頃にご案内する予定です。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

### ■お問い合わせ

名古屋芸術大学生涯学習センター  
TEL：0568-24-0359



### 2017年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

キャンパス	講座コード	講座名	受講者数
東	M-01	“脳を元気に！”リズムの力で脳を活性化しましょうー	5
	M-02	はじめてのオカリナ ～オカリナで奏でる心の歌～	8
	M-03	楽しいオカリナアンサンブル	11
	M-04	ハモる声を目指して～花、荒城の月を歌う～	9
	M-05	美しい日本語の話し方教室「言葉を磨いて印象アップ!!」	9
	M-06	簡単! デスクトップ・ミュージック (DTM) 講座	10
	M-07	健康な声をつくるヴォイス・コンディショニング	11
	M-08	しなやかなカラダをつくるストレッチング&呼吸法	7
	H-02	Web検索の仕組みとWordでオリジナル年賀状作成	6
西	B-01	美しい水彩画Ⅷー爽秋の林、野辺の草、花、果実を描く	19
	B-02	鉛筆デッサン講座	13
	B-03	初心者のための優しい墨彩画	16
	B-05	木彫を楽しむ part XIX	13
	B-06	基礎から学べる陶芸講座	5
	B-07	粘土による自由な造形～テラコッタ～	8
	D-02	「基礎の基礎! イラストレーターとフォトショップ」	4
	D-03	織物を楽しむ～リジット機を使って～	5
	D-04	こども造形と形遊び 「和久洋三が提唱する(和久メソッド)創造共育」 幼児・小学生	5
	D-05	創作メダル講座	7
合計19講座			171

### 2017年度 名古屋市大学連携講座

日程	講座名	受講者数
1/25 2/8 2/22	つながりを創出する音楽ケア・音楽療法	30

### 2017年度 名古屋市シリーズ講座

日程	講座名	受講者数
7/25 7/27 8/1	研究最前線! 大学の知を学ぶ 名古屋の景観と写真 名古屋と絵本(絵本と名古屋弁) 名古屋の考現学(名古屋の街の考察)	100



## 親の想い

### 音楽学部 音楽創造学科 3年 母 近藤結花

月日が過ぎるのは早いもので、息子はもう3年生。就職活動も始まっています。

息子は音楽学部でアートマネジメントを専攻しています。「長久手市のおんぼく」「宗次ホールでのコンサート」、「アッセンブリッジ名古屋」などの企画・運営など、学外での活動も経験してきました。宗次ホールでのコンサートでは、ホール支配人との連絡ややりとりなど、社会に出たらすぐに必要なスキルを養うことが出来たと思います。また去年はデンバー大学での短期語学研修に参加。語学だけでなく文化の違いも体験し、芸術大学ならではの研修内容で、他ではなかなかできない経験ができたこと喜んでいました。

大学での勉強は高校までとは違い、明確な答えを求めるといよりは自分の考えやアイデアをまとめるという作業が多く、息子はいつも苦労してレポートを書いています。私も音楽が好きなので、息子が勉強してきたことを教えてもらったり、レポートの課題と一緒に考えたり、テレビや新聞で芸術文化の話題が出るとそれについて議論したりと、息子の大学生活に便乗して楽しんでいます。

さらに便乗していること。それは、「後援会の合唱部」と「生涯学習講座」です。生涯学習講座はまるで大学の授業のように本格的です。私はボイストレーニングと合唱を受講しましたが、家では出せない大きな声が出せて、とても気持ち良かったです。後援会の合唱部も、声楽の先生にご指導いただくのでとても勉強になるし、卒業生のご父兄方との交流も楽しいです。

私が楽しんでいる話ばかりになってしまいましたが、息子の大学生活はあと少し。就活・卒業制作・卒論・学芸員資格の取得など課題はまだ多いです。これまで以上に学校関係者の方々にたくさん助けていただき、これまで以上に努力して、目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。応援しているからね！

### 芸術学部 芸術学科 デザイン領域 1年 母 小嶋史子

「絵が習いに行きたい…」そう言ったのは娘が高校2年の12月頃でした。美術大学進学も考えていたので高校入学当初から絵を習いに行くように勧めていましたが、やっと本人のやる気がでてきたのでしょうか。進路を真剣に考えるようになりました。美術部でもなく学校の美術の授業しか受けた事がない娘が本当に受験に間に合うのか心配でしたが、受験から入学まで真剣にデザインのことを意識してがんばっていました。

高校では演劇部に所属し主演を演じたこともありましたが、進学のために絵を習うことによって部長でありながらも全力で接することができず片身が狭い思いも経験したでしょう。そういった点でもよくがんばったと思います。

大学入学当初は通学だけで疲れていて意外に早く帰宅していました。課題は大丈夫なのか心配していたのですが、課題提出日が近づくと休日に登校する事や、自宅に持ち帰って徹夜することもありました。大学に入りアルバイトを始め、両立することは大変だと思う事もありましたが、それでも娘は「今までで今が一番楽しい」と言っています。やはり娘が自分で選択した進路は正しかったと私達も喜んでます。

父親は企業のデザインの仕事に従事しているので、デザインやプレゼンテーションのノウハウ、パソコンの技術的なアドバイスをしてくれる事と思います。母親の私は後援会活動と共にこれからも娘を生活面でサポートしていきます。

大学生活はいっぱい色々な経験をし、アルバイトをする事によって働く事の厳しさと稼ぐ事の喜びを知り新しい人間関係を形成する大切な期間です。色々なものを見聞きし、今しか出来ない体験をして友達と切磋琢磨し、それをデザインに生かして欲しいと思います。

春からは2年生となりコース選択でMCDIになりました。当初VDとMCDと迷っていましたが演劇の経験が生かせメディア関係も学べる選択したとの事です。しっかり学んで吸収し自分にしか出来ない作品を生み出して欲しいと思います。

## 子の想い

### 芸術学部 芸術学科 美術領域 日本画コース 1年 柏木海歩

私のキャンパスライフへの日々の想いつき、徒然なるがままに述べてみます。

朝が来ました。私にとって、名芸大への通学アクセスはかなり便利が良いです。自宅の最寄り駅より途中で2回乗り換えませんが、私鉄(名鉄)1社で徳重・名古屋芸大前駅に到着できます。高校生の時は私鉄2社を乗り継いでいたのでかなり便利さが違ってきます。

徳重・名古屋芸大前駅より西キャンパスへは、とにかく西へ向かって約1kmの直線道路を歩き続けます。濃尾平野を吹く風は強く、とても寒い日もあります。また、雨の日は仕上げた絵画作品を濡らさないように細心の注意を払いつつ歩きます。

家族からはとにかく傘を持っていくように度々ながされます。そして、歩く時間はどうしたことが割と長く感じます。自宅を出て1時間30分で大学到着です。

お昼になりました。私は昼食に弁当やおにぎりを持参することもあります。学食でランチをとることもあり、両方を併用しています。学食のランチは廉価でとても美味しいです。

午後になりました。さあ『日本画実技』の授業です。1年生ながら週4日×2コマで、週8コマもあります。クラスメートと夜まで居残って作品の完成を目指したりします。まさに正念場です。最大の悩みは思ったように絵が描けないことです。芸術には苦悩につきものと聞いたりしていますが、毎回のように“生みの苦しみ”を感じたりしています。時々上級生の作品を見て、さすがだなと思ったりしています。

家庭では…名芸大入学後、私は包装紙や商品の箱を見て、絵やデザインで強く引き付けられるものは家族よりもらい、保存するようになりました。これも私が芸大生になったからでしょうか。

将来は…私にとって大学は最も得意で好きな美術領域に進学したのですが、卒業後はどうなるのかという漠然とした不安はあります。未だ卒業後についてはイメージが定まってはいません。

## 人間発達学部 子ども発達学科 4年 水谷茉絢

私は大きくなったら「幼稚園の先生になりたい」という子供のころからの夢を叶えるため名古屋芸術大学に入学しました。

大学での授業を受けるたびに「子供が好き」という生半可な気持ちだけでは教育者になれないという現実に直面しました。

そんな時には先生方がわかりやすく丁寧に教えてくださり、多くのことを学ぶことができました。ゼミでは楽しい雰囲気の中、同じ志を持った仲間と討論したり雑談しました。どれも私にとって貴重な経験ばかりです。

楽しい時間は早いもので、あっという間に4年間の学生生活が過ぎてしまいました。卒業後は幼稚園に就職が決まりました。園児が500人、職員が二十数名という園です。働くことの厳しさは覚悟しているつもりです。2月から就職先の園での研修が始まり、園長先生はじめ先輩の先生にご指導いただいています。毎日かわいい子どもたちと一緒に過ごせ幸せな気持ちでいっぱいです。

お世話になった先生方、今まで育ててくれた両親に感謝！

大学の講義で学んだことを生かし、自分らしさを忘れず、これからも日々成長していきたいと思います。

## 私が就職内定をもらうまで



### 困ったり、悩んだ時は 相談を

音楽学部 演奏学科  
ピアノ選択コース  
4年 野村紗季

私は名古屋芸術大学に入学する前は、短期大学の保育科に在学していました。その頃から音楽を学びたい気持ちを諦めきれず、この大学に三年編入することを考えました。編入してからは、授業についていくことが大変でしたが、友人が支えてくれたので乗り越えることができました。また、毎日ピアノを思う存分練習できることがとても嬉しく、二台ピアノなどのコンサートに出演する機会もいただけました。人前で弾くことの大変さを知り、心の強さも生まれ、自分自身が大きく成長し充実した二年間を過ごすことができました。

私が就職活動を始めたのは三年生の二月頃でした。最初は何から始めて良いか分からなかったため、学内の就職セミナーに参加し、情報サイトに登録しました。多くの合同企業説明会に参加していくうちに、私は旅館、花

屋、宝石、雑貨などのサービス業に興味を持ちました。何でもやってみないと分からないと思ったので、会社説明会に行く他にグループディスカッションに参加、旅館で一泊二日のインターンシップ、花屋のアルバイトをしました。働きながらピアノは続けたいと思っていたのですが、会社の方々と話をさせていただくうちに、一般企業で働きながらピアノを練習していくことの難しさを感じました。

これからどうやって就職活動を進めていこうかと悩んでいた時に、学生支援課の方から今回内定をいただいた会社を紹介していただきました。ここは事務職とお昼にピアノを演奏する業務がありました。大変かもしれないけれど、ここならピアノを弾ける仕事ができると思い志望しました。面接の内容も履歴書の書き方も学生支援課の方々に相談をし、助言をいただきました。困ったり、悩んだ時は、自分だけで解決しようとしなくて相談が大切だと思いました。

これから就職活動を始める人にとって漠然とした不安があると思いますが、悔いが残らないよう、多くの会社説明会に参加して、頑張ってください。

(小島プレス工業株式会社 内定)



## 自分自身を大切に

美術学部 美術学科 日本画コース  
4年 堀江基樹

「どこに就職しようかなあ」そんな会話を耳にし始めたのは3年生の後期。うっすら他人事ではないと感じつつも、特に行動はしていませんでした。ですが周りの友達が、会社の説明会などに行った話を聞くなかでいよいよ自分も動き出さなければと思い始めました。

思い始めたはいいものの、何がしたいか定まっていなかった。まずは自分の好きなアパレル関係の会社の説明会を聞いてみようかと数社の会社説明会に参加させていただきました。今までは知らなかった会社の成り立ちや、その会社の企業理念がみえる中でたくさんの発見がありワクワクしたのを覚えています。たくさんのジャンルの会社が集まる合同説明会にも参加させていただいたのですが工場系を始め、ゲーム会社などの説明も楽しそうだなとは思ったのですが、いまいち自分が働く未来像が見えませんでした。数ある会社を見中でやはり自分にはアパレルというのが本当に興味があることなんだと気づきました。ですが、アパレルに就職したところで自分が今まで学んできた「美術」が全く活かさないのではないだろうか、それどころかファッションについての知識がない自分でも大丈夫なのかと不安に思うことも正直ありました。不安な中でエントリーシートの締め切りも近づき、就活はどんどんと進んで行く日々。エントリーシートはアパレル関係の会社を4社出しました。その中で3社が一次面接まで進みました。そしてそこから2社、2次面接まで進むことができました。面接をする中で自分自身大切にしたい事は、ありのままを出す

ことでした。自分自信のありのままを受け入れていただける会社が自分自身に1番あっているのではないかと考えたからです。

自分にはアパレル関係での経験はないが、服が好きであることや、美術を学んできたことからこんなことができるのではないかと考えていますという提案であつたりをしました。そこから3次面接に進むことができたのは1社になりました。そして3次面接では、より具体的に自分の強みであることをPRしました。そして内定をいただき就職を決めました。自分の学んできた「美術」が活かせるのか不安もありましたが面接を繰り返す中で自分に興味を示していただき、そんな中で自分自身もこんな場面でこれまでの経験を活かせることができるのではないかとという発見もあり、経験のないアパレル関係の会社でもやりがいやワクワクをみつけることができました。私が就活を終えて伝えたい事は、自分の強みをしっかりと伝えられるようにすること、そしてなにより、就職することも大切ですが自分自身を大切にしてくださいということです。もちろん就職することは大切ですが、嘘をついて自分自身をよく見せることよりも、自分自身の本当の強みや良いところ、または人それぞれの個性、そんなところを認めてもらうのもまた大切のように感じます。

そんなところを認めてくれる会社が本当の意味で自分自身にあった会社なのではないかと私は考えます。

(株式会社アーバンリサーチ 内定)



## 同じ夢を持つ 仲間がいたから 頑張れた

人間発達学部 子ども発達学科  
4年 式守あやか

私の就職活動は大学4年の5月から11月にまで及びました。筆記試験の勉強期間を含めると大学3年の秋頃からです。大学入学当初は、自身の母園が幼稚園だったこともあり、漠然と幼稚園の先生になりたいと思っていましたが、大学の先生方からの勧めや保育実習などの経験を通して、公立の保育園で働きたいと思うようになりました。

公務員試験の第一関門として筆記試験があります。私は、1ヵ月毎に何を勉強するか、計画を立てながら取り組みました。時には、友人と分からない問題を教え合ったり、電車の中でテキストを見返したりしてひたすら勉強しました。

保育実習試験では初対面の子どもと関わります。その為、少しでも子どもたちと関わっておきたいと思い、大学4年の7月と8月の間、公立の保育園でボランティア活動をさせてもらいました。子どもとの関わり方を間近で学んだり、現場の保育士の方に話を伺ったりして保育に対する理解を深めていきました。この経験は、試験で活かすことが出来たので自信に繋がりました。

面接を受けるに当たって、自己紹介や志望動機などを考えていると、今まで何を学んで得てきたのか、また、これからどのような保育をしたいかなど、改めて自身を振り返ることが出来ました。面接では、緊張しすぎて面接官の方に「落ち着いて大丈夫だよ。」と言われたほどです。しかし、最後まで諦めずに、ここで働きたいという思いや保育士になる熱意などを懸命に伝えました。面接では、人の内面を見られます。自分らしさを大切に、本当に言いたいことをいかに自分の言葉で伝えるかが重要だと思いました。

試験が進めば進むほど、結果を待つのが怖かったです。結果が知らされるまでは、自分の失敗ばかり気になってしまい不安に思う毎日でした。そのような時は、友人と話を

したり励まし合ったりして、辛い気持ちを乗り越えてきました。最終試験の結果が届き、震えた手で封筒を開けると、合格と書いてありました。その瞬間、驚きと嬉しい気持ちがこみ上げ、半年間の努力が報われたと実感しました。

私は、多くの方々に支えられて就職活動を乗り越えてきました。1人ではなく、同じ夢を持つ仲間がいたからこそ頑張ることが出来たと思います。これから就職活動をされる皆さんが、それぞれの良さを受け入れてくれる職場に出会えることを願っています。

(小牧市公立保育職 内定)

## 自分を知ること ～ポートフォリオ～

デザイン学部デザイン学科  
ヴィジュアルデザインコース  
4年 森川陽加

私は8月中旬ごろに希望する企業から内定を頂くことができ、目標だったグラフィックデザイナーとして就職先を見つけることができました。そこに至るまでの私の就職活動に向けた事前準備と心構えについてお話ししたいと思います。

私はグラフィックデザイナーとして就職したい場合、大切なのはデザインの実力以上にデザインに対する想いや向き合い方、どれだけその企業で働きたいかという気持ちだと思います。しかし、面接が苦手な方は緊張でうまく伝えられない場合もあるかもしれません。私は面接がとても苦手でしたが、デザイナー職の試験ではどの企業も面接の時にポートフォリオや作品も同時に見て頂ける事が多いので、ポートフォリオに自信が持てるようになると面接にもお守りを持っている気持ちで少し安心感を持って挑むことができました。ですので、事前にポートフォリオも準備しておくと思います。

私がポートフォリオを作り始めたのは2年の冬です。きっかけは2年の秋頃に、有志で活動していた学生主催のプロジェクトに協力してくださっていたプロのデザイナー集団の中の一人の方から、事務所に来ようとお誘いをいただきました。そのタイミングで、拙いレイアウトでしたが見よう見まねで作ったポートフォリオを持ち

込みました。その時作ったものが初めてのポートフォリオです。私は作ったポートフォリオをなるべくプロの方に見てもらい反応を見たりアドバイスをもらいました。アドバイスをもらっては修正し、何度もなんども自分の作品と向き合いました。作り直した数は10冊を超えています。見ていただくたびに厳しい意見もたくさん頂きましたが自分では気づけないことがたくさんあるので大切なことだと思います。また、同時に良いところも知る事ができるとその点には自信を持つことができます。それは、就職活動に必要な「自分」に対する自信につながる要素やきっかけになると思います。なかなかお話しする機会のない有名なデザイナーさんにも学生の特権かなと思い、恥ずかしい気持ちを捨てて積極的にポートフォリオを見ていただけないか声をかけに行っていました。今思えばそういった細かい行動も成長するチャンスになっていたと思います。

就職活動には事前準備が必要不可欠です。それは、受験する企業の事を知ることも大切ですが、自分を客観的に見て自分の事を知ることも大切な事前準備です。デザイナー職で就職する方はポートフォリオをうまく使って就職活動に役立てれるといいと思います。

(株式会社たき工房 内定)

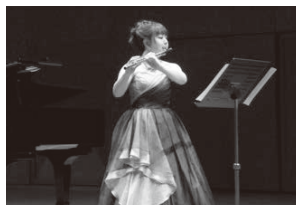


## 名古屋芸術大学音楽学部 第45回卒業演奏会

2018年3月8日に第45回卒業演奏会がしらかわホールにて行われました。当日は雨模様であったにも関わらず、多くの観客の方に来て頂きました。今年は14名の出演者(声楽3名、ピアノ4名、電子オルガン2名、弦管打5名)があり、どの学生も4年間培った技術・音楽性を演奏に込めた素晴らしいパフォーマンスを披露していました。

今後それぞれ色々な道に進む事と思いますが、卒業演奏会に出演できたという誇りを胸に、それぞれの場で活躍してくれる事を切に願っております。

音楽領域主任 依田嘉明

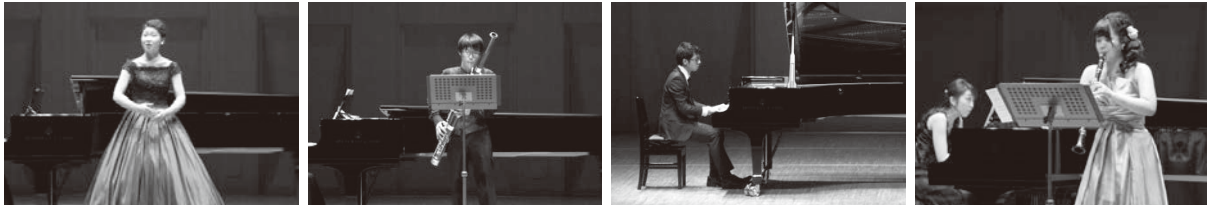


## 名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第20回修了演奏会

2018年3月2日に第20回大学院修了演奏会がしらかわホールで行われました。今年は9名の大学院(声楽2名、ピアノ2名、弦管打3名、作曲2名)が2年間学んだ成果を如何なく発揮し、素晴らしい演奏、又は作品を披露していました。やはり学部生の時とは一味違う演奏・作品に、会場に詰め掛けた観客から大きな拍手を受けていました。

今後は演奏を続ける学生が多いと聞いています。それぞれのフィールドでの活躍を期待しております。

音楽研究科長 依田嘉明



## 名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部 第45回卒業制作展

第45回名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部卒業制作展が2018年2月17日(土)～2月25日(日)まで本学西キャンパス内で開催された。今回、学内で実施する9日間の催しに早くから多くの時間が準備に費やされた。学内施設や野外を活用した卒業作品は校内施設内や屋外に点在・展示され、まるでキャンパス全体が公園や美術館に早変わりした様!

本学学長や北名古屋市市長等によるテープカットセレモニーで開幕した本展は、本学姉妹校・ブライトン大学教官2名による「ブライトン大学賞」各賞発表・授与式、社会(美術界)の第一線で活躍中のゲスト2名を迎えての卒業記念講演会の他、東京・名古屋在住のアートコレクター達によるトークショーとコレクター賞選抜、そしてマラ工科大学関係者による特別レクチャー、卒展カフェや作品販売・スタンブラリー等多くのイベントが組みられ、多数の老若男女の来場者が訪れて盛況の内に閉幕した。

卒展運営委員会委員長 教授 大崎正裕

## 名古屋芸術大学大学院美術研究科 第22回修了制作展

第22回名古屋芸術大学大学院修了制作展が市民ギャラリー矢田で2月27日～3月4日に開催されました。3月2日には東京芸術大学大学院グローバルアートプラクティス専攻講師で美術領域特別客員教授の今村有策先生による作品講評会が同時代表現研究領域で行われました。修了生はそれぞれの作品の前でプレゼンを行いながら作品の講評を受けました。

美術研究科長 須田真弘



## 名古屋芸術大学大学院デザイン研究科 修了展

2月27日から矢田市民ギャラリーで開催された大学院修了制作展にデザイン研究科生2名が出品した。クラフト専攻の山元将弥さんは、スペースデザインコースで学部卒業後、素材への探求など作品の幅を広げるべくメタルデザインの大学院に進学し、鉄という素材にチャレンジした。集合体への恐怖心、先端への恐怖心、などを分析し、それを鉄の製作物に落とし込んだ。展示は見る人に危険が及ばないように、自ら手すりを製作するなど工夫がなされ、恐怖心を煽りながらも魅力的な作品を制作した。展覧会会期中に購入希望者が現れるなど、作り手のメッセージが伝わった結果であると捉えられる。メディアデザイン



専攻のウェイ・ガンさんは、水墨画のタッチの絵画の中に、見るもの自身が登場し、動きに反応するインタラクティブメディアの映像作品を制作した。見るものを参加させ、巻き込み、引きつけてしまうこの作品での手法を応用し、デジタルサイネージとして、今後のあらたな街の広告媒体としてのありようが示され、高い技術力とともに更なる発展、応用が楽しみな作品であった。名芸での6年間又は2年間、彼ら自身が研鑽し、それぞれらしい視点を見失わないよう制作研究を続けてきた成果を、情報技術の発達で、他者とのコミュニケーションのありようが大きく変化する時代の中で、作品を通して自らのメッセージを社会に問うかたちで、この修了展で提示することができた展覧会であった。今後の活躍を期待している。

デザイン研究科長 駒井貞治



## 2017年度 名古屋芸術大学後援会 研修旅行報告

名古屋芸術大学後援会研修旅行は、大学の教職員と後援会委員、役員、顧問等の親睦を図る目的で行っています。仕事や家庭の事情で泊を伴うことが難しいという意見があったことから、今年は、1泊2日ではなく日帰り研修旅行を行いました。貸し切りバスでの研修旅行は、天候に恵まれて、名古屋駅から静岡浜松方面へと出発しました。

最初の見学地は、大河ドラマで話題の直虎ゆかりの里にある、神秘の大鍾乳洞「竜ヶ岩洞」です。2億数千万年かけてできた鍾乳石の数々に、大自然の神秘を感じることができました。

そして、昼食後に着いたのは、「浜松市楽器博物館」です。名芸の卒業生である学芸員の方の



お話を伺い、見学しました。見たことのない世界の楽器の音色を楽しめ、とても見ごたえのある博物館でした。さらに、素敵な出会いがありました。お宅にあった古い楽器を、以前浜松の楽器製造メーカーに寄贈された方が、参加された委員の中にいらっしゃいました。なんと、その懐かしい楽器が博物館に展示されていて、その出会いに、とても喜んでいらっしゃいました。

最後に、「ねむの木こども美術館」を訪れました。女優宮城まり子さん設立のねむの木学園。その子どもたちの絵を集めた美術館です。静かな環境の中、かわいらしい建物に飾られた、子どもたちの思いの詰まった絵に、心温まる思いがしました。

足早な見学時間ではありましたが、日帰りとしては十分楽しめる内容だったのではないのでしょうか。泊を伴う研修旅行では多くの人と親睦を図れたのが、特定の人としか話せなかったという声もあり、今後の研修旅行のあり方を考える1日となりました。

参加された皆様、お世話になった方々に感謝します。ありがとうございました。

事業委員長 種田美保子



### 大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号
学納金(学費)について	庶務会計課	
成績について 証明書発行について 休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	教務学生課	東キャンパス (音楽学部 / 芸術学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課	西キャンパス (美術学部・デザイン学部 / 芸術学部) 0568-24-0325 (代)
教員免許・学芸員資格について 就職について	キャリアセンター	
交換留学について	国際交流センター(国際交流センター室)	
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)	0568-24-0359 (直通)
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課	東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター	西キャンパス 0568-24-0325 (代表)
後援会について	事務局(事務部長)	東キャンパス 0568-24-0315 (代表)

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報に含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

# 名古屋芸術大学・大学院後援会会則

第1条 本会は名古屋芸術大学・大学院後援会（以下「本会」という）と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。

第2条 本会は名古屋芸術大学・大学院の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
- (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
- (3) その他本会の目的達成に必要なと認める事業。

第4条 本会は名古屋芸術大学・大学院学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。

第5条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名

第6条 本会の役員選出は次の方法による。

- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
- (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
- (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。

第7条 本会役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
- (2) 監事は会務を監査する。
- (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。

第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。

第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。

第10条 総会は次の事項を審議・決定する。

- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
- (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
- (3) 役員の選出、その他の役員が必要と認めた事項。

第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。

第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。

第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。

- (1) 総務委員会
- (2) 事業委員会
- (3) 広報委員会

第14条 委員会に、委員長1名、副委員長2名および委員若干名をおく。

- 2 委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は委員会の同意を得て会長が指名する。

第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。

第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。大学院生は年額10,000円とする。

第17条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。

第18条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。

- 附則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
  - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
  - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
  - 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
  - 5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。

## 名古屋芸術大学・大学院後援会 弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
2. 保護者（父・母）が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
3. 役員 of 2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、平成18年6月1日より施行する。

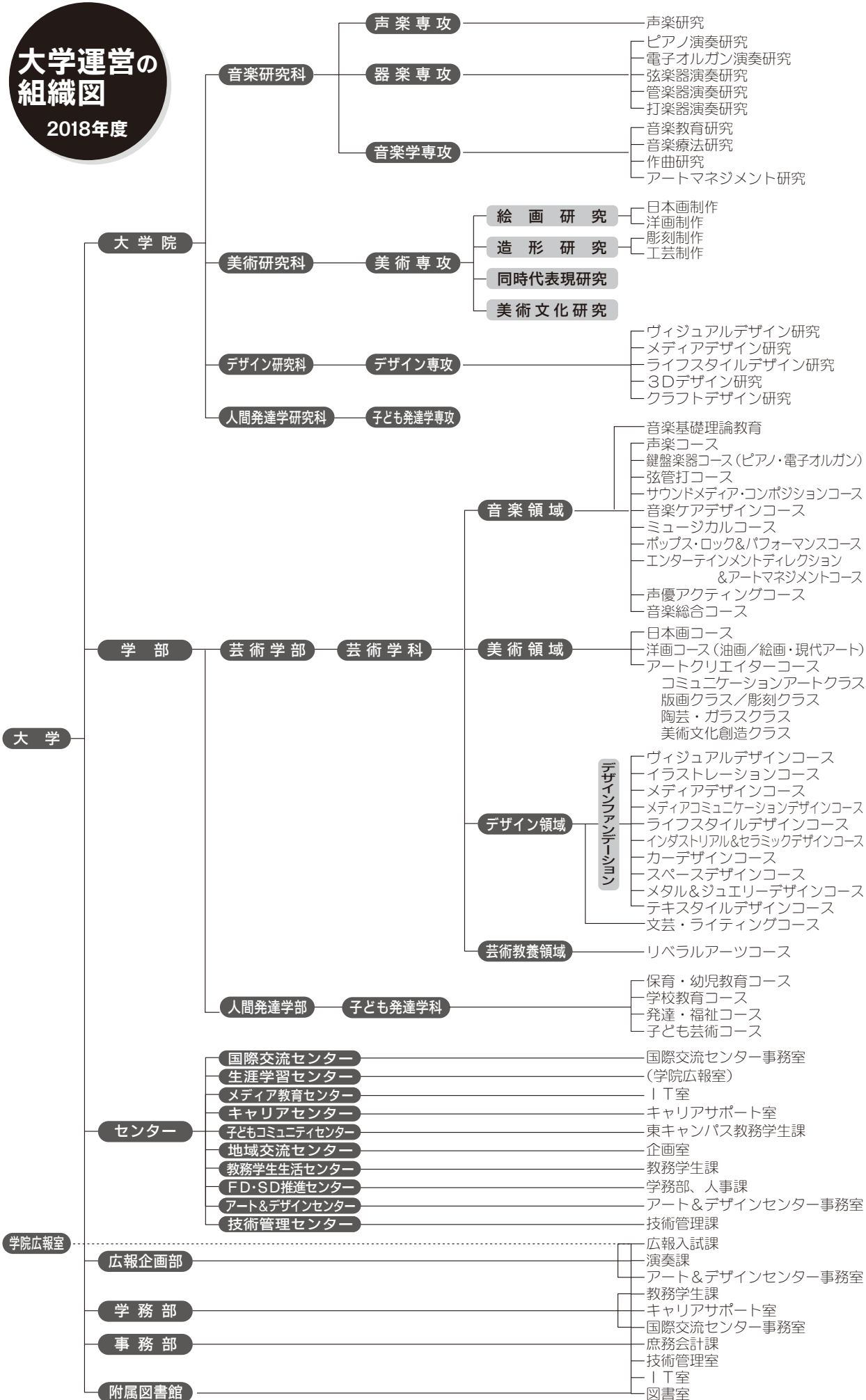
## 名古屋芸術大学・大学院後援会 顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学・大学院の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は平成17年4月1日から適用する。

## 大学運営の組織図

2018年度





## 「せせらぎ合唱団」団員募集

この「せせらぎ合唱団」は、名古屋芸術大学後援会の有志により「歌を歌って楽しもう」と19年前から活動している合唱サークルです。美術部の絵画サークル「壁の華」より数年遅れて始まりました。いまでは両方の会員になって活動している方もあります。今年入学された父兄の皆様には5月の定期総会に出席された方々にはすでに案内させて頂きました。まだこの会をご存知ない方々にもぜひとも知っていただきたく、この会員の募集をします。「せせらぎ」とは、小川の流れや音です。合唱は一人の声は小さく弱いのですが、仲間の声を聞き合わせるとカラオケとは違ったハーモニーが出来ます。うまく歌えなくても、心が楽しく、気持ちが浮き立ってきます。この4月からは、団員の歌いたい曲「ハナミズキ」（一青窈：作詞）を10名位の団員で歌っています。皆さんを、団員のみんながお待ちしています。ぜひともこの仲間に加わって一緒に歌おうではありませんか？発声練習の時間も、中学校の音楽の時間歌ったことのある「ローレライ」や「夢路より」を二部合唱で歌っています。

声を出すことで、健康を実感できるこのサークルへ、是非とも加わってください。お待ちしております。

### 【練習日】

毎月第3土曜日の午後1時から2時30分まで  
(都合により変更あり)

### 【場所】

東キャンパス4号館の3階のオペラ教室  
(グランドピアノで練習)

### 【指導者】

本校の卒業生である山田正丈先生と江端智哉先生に発声の仕方から各パートの音取りを懇切丁寧に教えてもらっています。

### 〈問い合わせ先〉

会 長 長江 政則  
〒480-1214 瀬戸市上品野927番地  
電話：0561-41-1655 携帯：080-3621-7706  
副 会 長 千石 智子  
〒488-0863 尾張旭市城前町上大道4084-6  
電話：0561-53-4222 携帯：090-8469-4324



## 絵画グループ 壁の華 会員募集

私達の絵画グループ壁の華は名古屋芸術大学後援会の有志により活動を続けております。毎月1回大学の先生方より懇切丁寧な指導を頂き、初心者の方も楽しく自然に壁の華の一員になる事が出来ます。

今年で第23回の展覧会を、名古屋市民ギャラリーで開催致しました。

他にスケッチ会、鑑賞会等あり、会員の交流が深まり、生活に潤いが生まれ楽しくなると思います。

壁の華の会員は新しい仲間を待っています。

### 【活動状況】

- 1、月例会 (月額会費：1,000円)  
日時：毎月第三日曜日午後2時～4時  
場所：名芸大西キャンパス
- 2、グループ展 (23回継続中)  
日時：毎年5月上旬(一週間展示)  
場所：名古屋市民ギャラリー 7F
- 3、スケッチ会 11月予定
- 4、日展、二科展、国画展の鑑賞会

### 〈問い合わせ先〉

会 長 宇佐見 誠也  
〒489-0874 瀬戸市幡野町508  
電話：0561-21-4567 携帯：090-7305-8205  
運営委員長 森部 みや子  
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58  
電話：0587-32-2814 携帯：090-1825-1671



## 編集後記

第45回卒業制作展に行つて来ました。本年度はこれまでとは趣を異にし、西キャンパス全体が展示会場となりました。少年、少女から大人へと揺れ動く青春の日々の中で、学生たちはここでどんなドラマに出会い、何を感じてこれを創つたのだろう。まさに作品が誕生したその現場で、彼らの4年間に思いを馳せながら見る作品たちは、取り澄ました学外の展示場に飾られる時にはない現実感で胸に迫ってまいりました。

ご存知のように、名古屋芸術大学はBORDERLESSをキーワードに、新たな一歩を踏み出しました。時代は移り、大学も変わっていきますが、在校生が一生の宝物を見つけ、巣立っていった子供たちがいつになっても誇りをもって戻ってこられる場であるよう、後援会もさらに活動の輪を広げて行きたいと思つています。日ごろのご支援に感謝するとともに、さらなるご協力をお願い申し上げます。

広報委員長 野々山早苗

- ◆発行 名古屋芸術大学・大学院後援会  
〒481-8503  
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地  
TEL. 0568-24-0315 FAX. 0568-24-0317
- ◆編集 名古屋芸術大学・大学院後援会  
広報委員会
- ◆表紙デザイン  
本学デザイン学科卒業生 武藤理恵子
- ◆発行日 2018年(平成30年)3月31日

